

令和8年3月19日

令和7年度第7回臨時松本市教育委員会

会 議 議 案

松本市教育委員会

令和7年度第7回臨時松本市教育委員会付議案件

[議案]

- 第1号 令和8年度版松本市教職員研修計画について
- 第2号 指導上の措置について【非公開】

[報告]

- 第1号 令和7年度松本市教職員研修実施報告について

[その他]

議案第 1 号

令和8年度版松本市教職員研修計画について

1 趣旨

令和5年2月に策定した松本市教職員研修計画について、令和5～7年度に実施した研修の成果と検証に基づき、令和8年度の研修計画を更新しましたので、その内容について協議するものです。

2 経過

- R 3. 4 市が中核市に移行
- R 4. 4 松本市教育研修センターを教育政策課内に設置
- R 5. 2 松本市教職員研修計画を策定（基本方針の計画期間は令和8年度まで、年度毎の具体的計画は毎年度更新）
- R 6. 3 松本市教職員研修計画（令和6年度版）を更新
- R 7. 3 松本市教職員研修計画（令和7年度版）を更新

3 令和8年度版の主な内容

- (1) 第三章の年度毎の教職員研修の内容を、令和8年度実施の内容に更新しました。

【新たに追加した目玉となる研修】

- ア 教職員のコミュニケーションを活性化する校内研修の作り方を学ぶ研修  
「対話する職員室をつくるワークショップ」（3回シリーズ）
- イ 「インスパイア・ハイ」の探究の学びへの効果的な活用の仕方を学ぶ研修  
「インスパイア・ハイを活用する」講座
- ウ 「松本市子どもの権利に関する条例」を踏まえた学校づくりを考える研修  
「木村先生と学ぶ『子どもの権利に関する条例』」
- エ いじめ等、保護者トラブル等への組織対応のあり方を専門家から学ぶ研修  
「小野田先生に学ぶいじめ等児童生徒トラブルへの対応」研修
- オ キャリアアップ研修Ⅰに係る研修

- (2) 「参考」の「長野県教員育成指標」を県の改訂に対応し、内容を更新しました。

4 教職員研修計画（案）

別添のとおり

5 今後の予定

8. 3月中 印刷製本し、教職員へ配布（各校2部+データ配信）するとともに、市ホームページにも掲載

4～ 実施研修講座の参加受付開始、研修実施

担当

教育政策課 課長 小西 えみ

教育研修センター センター長 大久保 和彦

電話 33-3980



# 松本市 教職員研修計画【令和8年度版】

松本市教育委員会教育研修センター



## わたしたちは、「すべての子どもにやさしいまち」をめざします。

- 1 どの子どもいのちと健康が守られ、本来もっている生きる力を高めながら、社会の一員として成長できるまち
- 2 どの子ども愛され、大切に育まれ、認められ、家庭や学校、地域などで安心して生きることができるとできるまち
- 3 どの子ども松本の豊かな美しい自然と文化のなかで、のびのびと育つまち
- 4 どの子ども地域のつながりのなかで、遊び、学び、活動することができるまち
- 5 どの子ども自由に学び、そのための情報が得られ、支援が受けられ、自分の考えや意見を表現でき、尊重されるまち
- 6 どの子どもいろいろなことに挑戦し、たとえ失敗しても再挑戦できるまち

子どもの権利は、子どもが成長するために欠くことのできない大切なものです。

日本は、世界の国々と子どもの権利に関して条約を結び、子どもがあらゆる差別を受けることなく、子どもにとって最も良いことは何かを第一に考え、安心して生き、思いや願いが尊重されるなど、子どもにとって大切な権利を保障することを約束しています。

子どもは、生まれながらにして、一人の人間として尊重されるかけがえのない存在です。

子どもは、赤ちゃんのときから思いを表現し、生きる力をもっています。

子どもは、障がい、国籍、性別などにかかわらず、また、貧困、病気、不登校などどんな困難な状況にあっても、尊い存在として大切にされます。

子どもは、一人ひとりの違いを「自分らしさ」として認められ、虐待やいじめ、災害などから守られ、いのちを育み健やかに成長していくことができます。また子どもは、感じたこと、考えたことを自由に表現することができ、自分にかかわるさまざまな場に参加することができます。

子どもは、自分の権利が大切にされるなかで、他の人の権利も考え、自他のいのちを尊び、子どもどうし、子どもとおとなのいい人間関係をつくるようになります。

おとなは、子どもの思いを受け止め、子どもの声に耳を傾け、子どもの成長と向き合います。おとなは、それぞれの役割と責任を自覚しながら、お互いに力を合わせ、子どもの育ちを支援します。そして、おとなも、家庭や学校、地域などで子どもと共に歩むことができるよう支援されます。

松本には、四季折々の豊かで美しい自然と子どもの育ちを支える地域のつながりがあり、ふるさと松本を愛する人たちがいます。そんな松本で、子どもの権利を保障し、すべての子どもにやさしいまちづくりをめざして、日本国憲法及び児童の権利に関する条約（以下「子どもの権利条約など」といいます。）の理念をふまえ、ここに松本市子どもの権利に関する条例を制定します。

# 目次

はじめに	
松本市教職員研修の全体像	1

## I 松本市の教職員研修の基本方針

01 願う教師像	2
02 教職員研修の目的	2
03 教職員研修の目標	2
04 松本市が独自に行う教職員研修の重点	3

## II 松本市教職員研修の体系

## III 令和8年度実施の教職員研修

01 令和8年度 実施研修講座一覧	5
02 令和8年度 実施研修講座の詳細	
A 基本研修	8
B 職務別研修	10
C 専門研修	15
D 課題別研修	28
E 特別研修	40
F 支援員等研修	47

## IV 研修参加に係る諸手続き

01 松本市が独自で実施する研修	
(1) 研修参加申込（年度当初）	
(2) 追加募集（随時）	
(3) 欠席・早退・遅刻等	
02 長野県教育委員会と連携して実施する研修	
03 申し込み上の留意点	
04 各種様式	
【参考】長野県の教員育成指標	54
(1) 長野県の教職員として求められる資質能力	
(2) 教員のキャリアステージ	
(3) 長野県教員育成指標	

## はじめに

世界的な気候変動や新たな感染症の出現で、私たちは予測困難な時代の到来を目の当たりにしています。新しい生活様式が模索される中で、情報化や技術革新は加速度的に進展し、社会は大きな転換期を迎えています。

令和4年2月に策定された松本市教育大綱では、変化の激しい時代を生きていくために意欲、計画性、粘り強さ、忍耐力、自制心、協調性、創造性、コミュニケーション力といった「生涯の学びを支える非認知的能力」が必要であるとした上で、それらを育むために大切にしていきたい学びの視点として

- ・一人ひとりの個性や能力を尊重した「多様性」を育む学び
- ・未来を切り拓き、新しい価値を生み出す「創造性」を育む学び
- ・自己や他者と対話しながら、社会に参画する「主体性」を育む学び

の3つを掲げています。

このような資質・能力を育んでいくためには、教職員には、これまでの「子ども観」や「授業・指導観」を振り返り、さらなる工夫・改善をしていくことに加えて、保護者や地域、関係機関などと連携・協働していくことを通じて、新たな「教師像」や「学校像」を描いていくことが求められています。

松本市は令和3年度より中核市に移行し、市の教育課題に即した独自の研修を主体的に構想・実施していくことが可能となりました。

令和4年8月31日に文部科学省より示された「公立の小学校等の校長および教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」の中では、これからの時代に求められる教職員の学びの姿として、次のような位置づけがなされています。

新たな教員の学びの姿として求められているのは、一人一人の教員等が、自らの専門職性を高めていく営みであると自覚しながら、誇りを持って主体的に研修に打ち込むことである。教員等の資質の向上を図ることは、児童生徒等の教育を充実することに他ならない。児童生徒等の学びと教員等の学びは相似形となることが重要であり、個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、児童生徒等の学びのみならず、教員等の学びにもまた求められており、児童生徒等の学びのロールモデルとなることが期待される。

子どもたちがよりよい未来を主体的に実現していく資質・能力を育む学校教育を実現するためには、教職員自身の主体的に「学び続ける」姿勢が大切となることはいうまでもありません。そして、その実現のためには日々の教育実践における省察に加え、様々な研修の機会を通じて、「子ども観」、「授業・指導観」を問い直し、新たな「教師像」、「学校像」を描いていくことが求められています。そして、そのような教師の学びを実現する研修の工夫・実施も強く求められています。

以上の経緯を踏まえて、ここに「松本市教職員研修計画」を策定し、松本市の教職員研修を体系化し、教職員自身の多様性・創造性・主体性等の資質・能力をも一層の向上を図り、松本市教育大綱の基本理念である「子どもが主人公 学都松本のシンカ」や、第3次松本市教育振興基本計画が掲げる「学びに、遊びや体験を。生涯を通じた学びを保障する松本まるごと学都構想」の具体化を目指していきます。

なお、本計画は、第3次松本市教育振興基本計画の計画期間と合わせ、令和8年度までの基本方針を第I章と第II章で定め、これに基づく年度毎の具体的な取組みを第III章に定めています。

第III章は、PDCAを基に、年度ごとに更新するものとします。

# 松本市の教職員研修の全体像

## 松本市教育大綱

子どもが主人公  
学都松本のシンカ

## 第3次松本市教育振興基本計画

**学びに、遊びや体験を。**

生涯を通じた学びを保障する  
松本まるごと学都構想

分野2 教育

方針3 教職員研修の充実と働き方改革の推進

### 【施策の方向性】

- 中核市として教職員の研修権を有する松本市は、国の教育政策や県の施策の方向性を踏まえながら、研修の方法や内容を工夫した研修を独自に企画・実施し、教職員の育ちと学びを支援します。

## 子ども観・学び観・学校像・教師像を問い直し、深める教職員研修

※松本市の教職員研修は長野県総合教育センターの立地や研修効果を踏まえ、一部の研修を長野県と連携し実施します。松本市に勤務する県費負担教職員は、下記の1、2の双方の研修に参加することになります。

### 01 松本市が独自に実施する研修

- 職務別研修（職務遂行上、必要な資質・能力の向上を図る研修）
- 専門研修（教科等の指導力を高める研修）
- 課題別研修（多様な教育課題に対応する力を高める研修）
- 特別研修（教師としての見方・考え方を深める研修）
- 市費教職員研修（支援員、図書館事務職員、自立支援教員等研修）

### 02 松本市が長野県と連携し実施する研修

- 基本研修（初任者研修/ キャリアアップ研修等の法定研修）
- 職務別研修（事務・栄養職員研修/ 養護教諭研修/ 一部の管理職研修）
- 総合教育センターが開設する希望研修講座

「子どもが主人公」多様性・創造性・主体性を育む教師

# I 松本市の教職員研修の基本方針

## 01 | 願う教師像

### 「子どもの「すがた」と「学び」を問いつける教師」

- 子どもの尊厳と人権を尊重する教師
- 子どもの多様性・創造性・主体性を引き出す「学びの伴走者」としての教師
- 子どもとともに成長の喜びを感じ、仲間とともに学び続ける教師

## 02 | 教職員研修の目的

### 「子ども・教師の育ちと学びを支える教職員研修」

- 子どもの尊厳と人権を尊重しながら、子どもを主人公としていく松本市の教育の本質を追求し、参加者の子ども観の問い直しと深まりを目指します。
- 日々の実践や課題を持ち寄り対話することを通じて、参加者の主体性や関係性の問い直しと深まりを目指します。

## 03 | 教職員研修の目標

松本市独自の教職員研修の実施にあたっては、次の各目標に基づき、研修を行っていきます。

- 1 | キャリアステージに応じた研修と現代的な教育課題に対応した研修**  
キャリアステージに応じた研修のほか、授業改善や、特別支援教育など、現代的な教育課題に対応した研修を実施していきます。
- 2 | 研修ニーズの把握と研修の柔軟な企画・立案**  
市独自実施のメリットを生かし、教職員の研修ニーズを多様な方法によって把握し、柔軟に研修の企画・立案に反映させていきます。
- 3 | 多様な方法による研修と学びのコミュニティの形成**  
講義型研修のほか、参加型ワークショップや参加者自身による研修企画の創出等、教職員が主体的に参加し、学びのコミュニティを形成できるよう、研修の実施形態を工夫していきます。
- 4 | 教職員の働き方を考慮した効果的な研修**  
研修の方法・頻度・時間帯を工夫し教職員が参加しやすい効果的な研修を実施していきます。
- 5 | 指導主事等による学校訪問**  
学校のニーズに応じて指導主事等による学校訪問を行い、校内研修の充実を図っていきます。
- 6 | 長野県教育委員会との連携**  
研修は松本市での実施のほか長野県教育委員会実施の研修も取り入れていきます。また、研修の共同企画・開催等、県教育委員会との密接な連携を図ります。  
(例：初任者研修/ キャリアアップ研修Ⅰ～Ⅲ/ 職務別研修 等)

## 04 | 松本市が独自に行う教職員研修の重点

松本市が独自に行う教職員研修では、これまで述べた通り「子ども観」「授業観・指導観」「教師像」「学校像」の4つの観点から実践を問い直し、教職員がそれぞれの「観・像」を深めていくことを重視しています。実際の研修の構想に当たっては、下記のように、各観点に関わる具体的な内容を重点的に扱っていきます。

### (1)「子ども観」の問い直し

#### ○ 多様な子どもの自分らしさを尊重した学びのあり方に関する研修

- ・ 子どもの見方、子ども理解を深めるために専門家から知見を学ぶ研修
- ・ インクルーシブな教室環境・授業づくりに関する研修
- ・ 子ども理解を深め、特別支援教育における学校全体の指導力・チーム力を高める研修
- ・ すべての子どものありようを受けとめ認め、はぐくむ子ども観を深める研修 等

### (2)「授業観・指導観」の問い直し

#### ○ すべての子どもの資質・能力を育む授業づくりのあり方に関する研修

- ・ 一人ひとりの人格を尊重し互いを認め合うインクルーシブな教育の推進に関する研修
- ・ SDGsとまつもと学（地域素材の教材化）の推進に関する研修
- ・ テーマ別授業づくり研修  
主体的・対話的で深い学びの実現/ 個別最適な学びと協働的な学びの実現/ 子どもの「問い」を生かした授業づくり/ 非認知的能力を重視した授業づくり/ 教具・文具としてのICTを活用した授業づくり/ デジタル・シティズンシップ教育/ 「遊び」「体験」をベースに置いたカリキュラムづくり 等

### (3)「教師像」の問い直し

#### ○ 「学びの伴走者」としての教師のあり方に関する研修

- ・ 人権感覚を磨く研修
- ・ 先哲に学ぶ研修
- ・ 危機管理研修、学校における働き方改革に関する研修
- ・ ファシリテーションおよびコーチング研修 講師サポート研修 等

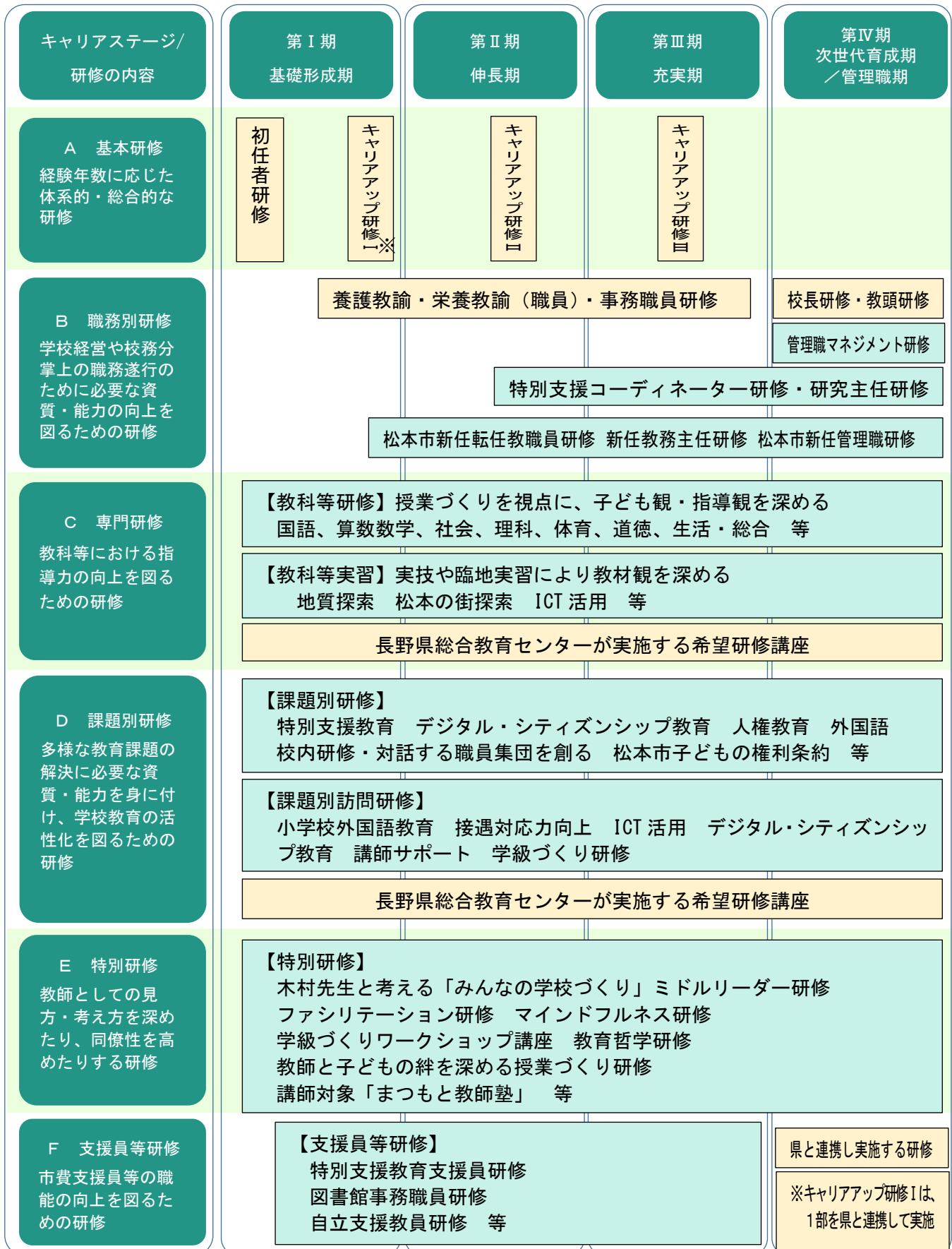
### (4)「学校像」の問い直し

#### ○ 子どもにとって魅力ある学校づくりとマネジメントのあり方に関する研修

- ・ 学校教育目標具現のための教育課程編成（カリキュラムマネジメント）に関する研修
- ・ 指導力・チーム力を高める校内研修・校内研究推進研修（主に教務主任・研究主任対象）
- ・ リーダーシップ・フォロアーズ研修（主に管理職対象）
- ・ ミドルリーダー研修（主に中堅教員対象）
- ・ 幼保小中連携のあり方に関する研修 等

# Ⅱ 松本市教職員研修の体系

以上の松本市教職員研修の基本方針を踏まえ、松本市が実施する教職員研修を研修の領域（A～F）およびキャリアステージに基づいて、以下のように整理しました。



# Ⅲ 令和8年度実施の教職員研修

## 01 | 令和8年度 実施講座一覧

●県教育委員会と連携実施する研修 ★…対象者を指定する研修（対象者全員参加）

研修領域	講座番号	重点	研修講座名	受講対象者	実施期日	詳細P
A 基礎 研修	A01	①②	●小中学校教諭 初任者研修 1年次研修 12日間（県と連携）	★市立小中学校に新規採用となった教諭	4月～1月	8
		①②	●小中学校教諭 初任者研修 2年次研修 4日間（県と連携）	★採用2年目の教諭	4月～1月	
	A02	①②③	キャリアアップ研修Ⅰ 4日間	★採用5年目の教諭	5月～2月	8
		①②③	キャリアアップ研修Ⅱ（県と連携） 6日間	★採用10年目の教諭	5月～2月	
		①②③④	キャリアアップ研修Ⅲ（県と連携） 2日間	★採用20年目の教諭	5月～2月	
B 職務 別 研修		③④	●新任校長研修（長野県教委と連携）	★初めて校長に任用された者	4/15(水)	
		④	●新任教頭研修（長野県教委と連携） 2日間	★初めて教頭に任用された者	5/25(月) 6/1(月)	
	B01	③④	松本市新任管理職研修	★松本市に新任、転任の管理職	4/3(金)	10
		④	●義務校長研修（長野県教委と連携）	★全ての校長	5/12(火)	
	B02	④	校長マネジメント研修	★全ての校長	5/11(月)	10
		③④	教頭マネジメント研修（長野県教委と連携）	★全ての教頭	10/20(火)	
	B03	①②④	校長・特支コーディネーター合同研修	★各校の校長および特支コーディネーター1名	6/29(月)	11
	B04	③④	教頭研修（オンライン）	★全ての教頭	5/11(月)	11
	B05	③④	新任教務主任研修	★初めて教務主任になった教員等	4/16(木)	12
	B06	①②	松本市新任転任教職員研修	★松本市に赴任した教職員	4/9(木)	12
	B07	③④	生徒指導主任等研修	★生徒指導主任等	5/12(火)	13
	B08	①②	研究主任研修会Ⅰ・Ⅱ	★各校の研究主任	5/15(金) 12/18(金)	13
	B09	①②	新任特別支援教育コーディネーター研修	★初めて特支コーディネーターになった方	4/13(月)	14
C 専 門 研 修	授 業 づ く り	C01	② 国語授業づくりゼミⅠ～Ⅲ	小（中）学校教員（希望者）	5/22,7/10, 9/18	15
		C02	② 小学校社会授業づくりゼミⅠ～Ⅲ	小（中）学校教員（希望者）	6/25,7/16, 9/17	16
		C03	①② 算数数学授業づくりセミナーⅠ～Ⅲ	小中学校教員（希望者）	5/1,7/3, 12/4	17
		C04	①② 理科授業づくりセミナーⅠ・Ⅱ	小中学校教員（希望者）	5/14(木) 7/9(木)	18
		C05	①② ニュースポーツ・バラスポーツ研修	小中学校教員（希望者）	7/30(木)	19
		C06	①② 対話を生かした道徳の授業づくり	★各校の道徳係等（未受講者）	6/26(金)	20
		C07	②④ 畔上先生と深める「探究の学び」観	小中学校教員（希望者）	5/18(月)	20
		C08	② インスパイア・ハイを活用する	中学校教員（希望者）	6/9(火)	21
		C09	①② 実践校に学ぶ「単元内自由進度学習」（寿小）	小中学校教員（希望者）	6/11(木)	21
		C10	③④ 実践校に学ぶ「校内研修づくり」（並柳小）	小中学校教員（希望者）	7/15(水)	22
		C11	①② 実践校に学ぶ「探究の学び」（開智小）	小中学校教員（希望者）	10/30(金)	22
		C12	①② 生徒が自己肯定感を高める授業づくり研修Ⅰ～Ⅵ	小中学校教員（希望者）	4/17,6/2,8/20, 10/8,12/10,2/9	23
実 習 等	C21	②③ 美ヶ原フィールドワーク	小中学校教員（希望者）	5/28(木)	24	
	C22	②③ 四賀フィールドワーク	小中学校教員（希望者）	6/18(木)	24	
	C23	② 松本のまちフィールドワーク	小中学校教員（希望者）	11/6(金)	25	
	C24	①② ICT活用 一人一台端末操作研修（基礎編）	小中学校教員（希望者）	7/10(金)	26	
	C25	①② ICT活用 一人一台端末を活用した授業づくり	小中学校教員（希望者）	11/13(金)	27	

D 課題別 研修	D01	①③	不登校児童生徒の理解と支援	★生徒指導・不登校担当教員等	5/8(金)	28
	D02	①③	特別支援教育研修Ⅰ 合理的配慮	小中学校教員(希望者)	6/5(金)	28
	D03	①③	特別支援教育研修Ⅱ 障がいの理解と合理的配慮	小中学校教員(希望者)	7/31(金)	29
	D04	①②	特別支援教育研修Ⅲ 障がいの理解と支援	小中学校教員(希望者)	12/3(木)	29
	D05	①②	特別支援教育Ⅳ 生活単元学習研修	★小中学校知障学級担当教員	2/5(金)	30
	D06	①④	木村泰子先生と学ぶ「松本市子どもの権利に関する条例」研修	小中学校教員(希望者)	9/8(火)	30
	D07	①	性の多様化と学校での合理的配慮	小中学校教員(希望者)	9/15(火)	31
	D08	①②	デジタル・シティズンシップ教育研修	★情報・生徒指導担当教員	10/1(木)	31
	D09	③④	カリキュラム・マネジメント研修Ⅰ・Ⅱ	★小中学校教務主任等	5/21(木) 10/9(金)	32
	D10	③④	「対話する職員集団を創る」ワークショップⅠ～Ⅲ	小中学校教員(希望者)	4/21,5/29, 7/9	33
	D11	③④	「校内研修を創る」ワークショップseason2Ⅰ・Ⅱ	小中学校教員(希望者)	4/28(火) 2/18(木)	33
D 課題別 訪問 研修	D21	①②	【訪問型】特別支援教育研修	小中学校教員(希望者)	学校の希望日	34
	D22	①②	【訪問型】デジタル・シティズンシップ教育研修	小中学校教員(希望者)	10/2(金)	35
	D23	③④	【訪問型】接遇・対応力向上研修	小中学校教員(希望者)	学校の希望日	36
	D24	①②	【訪問型】講師サポート研修	小中学校臨時の任用教員(希望者)	学校の希望日	36
	D25	①②	【訪問型】外国語・外国語活動授業づくり研修	小学校教員(希望者)	学校の希望日	37
	D26	①③	【訪問型】ICT端末活用研修	小中学校教員(希望者)	7月～10月	37
	D27	①③	【訪問型】集団あそび・学級づくり研修	小学校教員(希望者)	7月～8月	38
	D28	①③	【訪問型】生徒指導研修	小中学校教員(希望者)	6月～12月	38
	D29	①③	【訪問型】不登校児童生徒の理解と支援(スクリーニングシートの活用)	小中学校教員(希望者)	学校の希望日	39
E 特別 研修	E01	①②③④	松本市全教職員研修 まつもと「学びの日」(教育会と共催)	★小中学校全教職員	7/28(火)	40
	E02	①③	教育哲学研修(オンライン)	小中学校教員(希望者)	10/27(火)	41
	E03	②③	学級づくりワークショップ講座	小中学校教員(希望者)	8/3(月)	41
	E04	①③	【訪問型】木村先生と考える「みんなの学校づくり」Ⅰ・Ⅱ	小中学校教員(希望校)	9/9(水) 9/10(木)	42
	E05	①②	【訪問型】教師と子どもの絆を深める授業づくり研修Ⅰ～Ⅴ	小中学校教員(希望校)	7月～12月の 指定日	42
	E06	③④	ワークショップ型 ミドルリーダー研修Ⅰ～Ⅲ	小中学校教員(希望者)	6/4,9/25, 11/9	43
	E07	②③	ファシリテーション力向上研修	小中学校教員(希望者)	11/17(火)	44
	E08	①③	マインドフルネス入門	小中学校教員(希望者)	7/31(金)	45
	E09	①②	まつもと講師塾(講師対象研修)Ⅰ～Ⅲ	小中学校臨時の任用教員(希望者)	6/15,9/14, 11/20	46
F 等 支援 員 研修	F01	①③	市費教員等新規採用者合同研修会	★松本市市費新規採用教職員	4/3(金)	47
	F02	①③	自立支援教員研修会Ⅰ～Ⅲ	★市費自立支援教員	4/20,9/14, 1/21	47
	F03	①	特別支援教育支援員研修	★特別支援教育支援教員	6/23(火)	48

重点	内容
①子ども観	多様な子どもの自分らしさを尊重した学びのあり方に関する研修
②授業観・指導観	すべての子どもの資質・能力を育む授業づくりのあり方に関する研修
③教師像	学びの伴走者としての教師のあり方に関する研修
④学校像	子どもにとって魅力ある学校づくりとマネジメントのあり方に関する研修

## \* インクルーシブセンター実施研修講座の紹介 \*

インクルーシブセンター主催の研修講座です。  
 ご案内や募集等については、インクルーシブセンターから改めて通知します。  
 どなたでもお気軽にご参加ください。  
 会場は、すべてインクルーシブセンター（なんぷくプラザ3F）になります。

### 【とっこマンデー】(偶数月の月曜日)

実践:特コのお仕事、みんなでやればコワくない!

研修講座名	講師(所属)	R8期日
実践「T式ひらがな音読検査」	斉藤 義直 氏(公認心理士)	6月15日
妄想支援会議	牧田 みずほ 氏 (信州大学子どものこころの発達医学教室)	8月3日
検査結果からわかること	疋田 祥子 氏 (インクルーシブセンター臨床心理士)	10月26日
校内教育支援委員会について語り合おう ～みんなどうやっているの?～	未定	12月21日
移行支援会議で大事にしたいこと	山本 唯 氏(インクルーシブセンター 発達障がい児サポートコーディネーター)	2月8日

### 【とっこフライデー】(奇数月の金曜日)

情報アップデートと先生方のつながりの場に

研修講座名	講師(所属)	R8期日
紹介「T式ひらがな音読検査」	斉藤 義直 氏(公認心理士)	5月15日
先生の疑問から考えるクラスの中で困っている子どもへの対応	日戸 由刈 氏(相模女子大学)	7月31日
不登校の子どもたち	山本 唯 氏(インクルーシブセンター 発達障がい児サポートコーディネーター)	9月4日
おススメ!!リタリコまなび教材	未定	11月20日
それぞれの進路～事例から選択肢の幅を広げよう～	未定	1月29日

#### 【お問合せ先】

松本市インクルーシブセンター  
 TEL : 0263-24-1235

★…対象者を指定した必修研修

※ 原則として終了は終業時刻です

**A 基本研修** 経験年数に応じた体系的・総合的な研修

講座番号	A01	日時	5/19 (火) 14:00~	会場	教育文化センター
研修の種類	指定研修	対象者	初任者★	ライフステージ	I
期待される学び	①子ども観の問い直し	育成指標	E⑧指導方法		
	②授業観・指導観の問い直し		E⑩個への指導⑪集団における指導		
講座名	<b>ようこそ！初任者の先生方</b> 松本市実施初任者研修				参加申込は不要です
講座の概要	<p>◆初めて正規教員になった先生方、「どうやって子どもに接したらいいか、授業はどう進めていったらいいか」など不安が大きいことでしょう。同じ立場の初任の先生方とともに、「松本市が目指す教育」「特別支援教育とインクルーシブな教育環境」などについて学んだり、お互い情報交換したりしながら、教師としてのあり方について見通しと自信を持ちつつ、相談できる「仲間づくり」をしましょう！</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育長講話（松本市の教育が目指すもの）</li> <li>2 特別支援教育研修（特別支援教育とインクルーシブな教育環境）</li> <li>3 グループワークショップ（私の現在地とこれからを語りましょう）</li> </ol>				

講座番号	A02-1	日時	5/26 (火) 13:30~	会場	教育文化センター
研修の種類	指定研修	対象者	キャリアアップ研修I★	ライフステージ	I
期待される学び	①子ども観 ②授業・指導観	育成指標	D⑤危機管理		
	③教師像の問い直し		E⑦教材研究 ⑧指導方法		
講座名	<b>新たなステージに向けて 自己課題をフラッシュアップ！</b> キャリアアップ研修I 全体研修				参加申込は不要です
講座の概要	<p>◆松本市で実施しているキャリアアップ研修I（採用から5年目以上になる教員）です。「非違行為防止」について学んだり、学級・学年経営、教科指導、生徒指導などについて同じ立場の仲間と語り合ったりして、専門的知識を豊かにするとともに自己課題をフラッシュアップします。これまでの教員としての自分の実践を振り返り、伸長期に向けての目標と見通しを持てるようになることを目指します！</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション（1年間の研修の目的と見通し）</li> <li>2 非違行為防止研修（非違行為防止とリスクマネジメント） （静岡大学 山崎保寿 名誉教授）</li> <li>3 自己課題フラッシュアップ研修</li> <li>4 グループ別協議（今後の見通し等を語り合う）</li> </ol> <p><b>【持ち物】</b>・セルフチェックシート2部 ・自己課題案（自己課題とその理由）</p>				

講座番号	A02-2	日時	1/21 (木) 13:30~	会場	勤労者福祉センター
研修の種類	指定研修	対象者	キャリアアップ研修Ⅰ★	ライフステージ	Ⅰ
期待される 学び	①子ども観 ②授業・指導観		育成指標	E⑦教材研究 ⑧指導方法	
	③教師像の問い直し			E⑩個への指導 ⑪集団への指導	
講座名	<b>自分の歩みを語ろう！キャリアステージをアップ</b>				
	キャリアアップ研修Ⅰ 自己課題研修			参加申込は不要です	
講座の概要	<p>◆社会人としてのマナーを再確認するとともに、自己課題に基づき実践を積み重ねてきた1年間の自分の歩みについて、仲間と語り学び合います。当日の発表方法は、板書の写真や今までのワークシートを用いるなど自分のやりたい方法で構いません。自己課題の解決に向けて取り組んだ1年間の成果や残された課題などについて自分の言葉で語り、仲間からフィードバックをもらい、自分の学びを振り返り、今後のキャリアステージのアップに向けての目標と自覚をもつ機会にしましょう！</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オープニング</li> <li>2 マナー研修 「よりよいマナーとは」 (好生館マナー研究所代表 青木孝子 氏)</li> <li>3 自己課題研修 自己課題に基づく実践発表とフィードバック</li> <li>4 クロージング</li> </ol> <p><b>【持ち物】</b>・板書の写真や子どものワークシート等発表に使う資料。</p>				

※キャリアアップ研修ⅡⅢおよび上記以外の初任者研修等、松本市が長野県教育委員会と連携して実施する研修については、長野県教育委員会から Plant に示される要項等を参照してください。

## B 職務別研修

学校経営や校務分掌上の職務遂行のために必要な資質・能力の向上を図るための研修

講座番号	B01	日時	4/3(金) 14:30~	会場	教育文化センター
研修の種類	指定研修	対象者	新転任校長・教頭★	ライフステージ	IV
期待される学び	③教師像の問い直し ④学校像の問い直し	育成指標	D④チームマネジメント D⑥カリキュラムマネジメント		
講座名	<b>松本市のスクールリーダー 初めの一步</b> 松本市新任管理職研修				参加申込は不要です
講座の概要	<p>◆松本市に管理職として初めて赴任する校長先生・教頭先生が一堂に会し、松本市の教育理念や教育システムについて理解を深め、また、疑問点や課題等を協議することを通して、松本市のスクールリーダーとしての自覚と意欲を高め、年度当初の学校運営を進める見通しを持てるようになることを目指します。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育長講話（松本市の教育の目指すもの）</li> <li>2 教育監講話・演習（非違行為防止・コンプライアンス意識の向上）</li> <li>3 松本市の教育運営システムの理解（①校務支援システム ②教職員研修・みんミラ事業 ③ICTシステム管理 等）</li> <li>4 協議・情報交換</li> </ol>				

講座番号	B02	日時	5/11(月) 9:00~	会場	教育文化センター
研修の種類	指定研修	対象者	校長★	ライフステージ	IV
期待される学び	④学校像の問い直し	育成指標	D④チームマネジメント D⑥カリキュラムマネジメント		
講座名	<b>チームで進める「学校づくり」と「危機管理」</b> 校長マネジメント研修				参加申込は不要です
講座の概要	<p>◆「学習指導要領の理念を中核においた学校づくり」「組織で取組む『いじめ等事案』への対応」について、それぞれの第一人者の講師から学び、講義を踏まえて実践したいことを校長同士で協議することを通して、機能するチームを作り、学校づくりをすすめるマネジメントの具体を学び、実践への意欲を深めます。</p> <p>※2つの講義・演習については、教頭およびミドルリーダー向け研修でも同様の内容を実施し、管理職とミドルが同じまなざしで取組む学校づくりの実践化を図ります。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義と演習「いじめ等、児童生徒間トラブルへの対応のあり方」 (大阪大学 小野田正利 名誉教授) ※教頭対象にオンライン配信</li> <li>2 講義と演習「学習指導要領の理念を踏まえたカリキュラムマネジメント」 (大阪教育大学 陸奥田維彦 特任教授)</li> <li>3 参加者による協議「学校マネジメント実践の手応えと課題」</li> </ol>				

講座番号	B03	日時	6/29 (月) 15:00～	会場	勤労者福祉センター 大会議室
研修の種類	指定研修	対象者	校長・特支コ★	ライフステージ	Ⅲ・Ⅳ
期待される学び	①子ども観 ②授業・指導観 ④学校像の問い直し	育成指標	B 確かな人権意識と共感力 E⑬インクルーシブな教育		
講座名	<b>松本市の目指す特別支援教育とは</b> 校長・特別支援教育コーディネーター合同研修				
講座の概要	<p>◆校長先生（管理職）と特別支援教育コーディネーターが同時に受講する画期的な研修です。学校現場でインクルーシブ教育を推進していく要となるお二人が時間と空間を共有するこの企画は、毎年好評をいただいている企画です！本年度も、インクルーシブセンターや市立特別支援学校設立に大いにかかわっていただいている信州大学の庄司和史先生による講義と、中学校区ごとの情報交換を予定しています。松本市のインクルーシブ教育をどのように推進していくか考えましょう！</p> <p><b>【主な内容】 信州大学学生相談センター 庄司和史 特任教授</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「松本市の目指す特別支援教育とは（仮）」</li> <li>中学校区別情報交換（講義から感じたこと・切れ目のない支援について）</li> </ol>				

講座番号	B04	日時	5/11 (月) 9:00～	会場	各学校（オンライン）
研修の種類	指定研修	対象者	教頭★	ライフステージ	Ⅳ
期待される学び	③教師像の問い直し ④学校像の問い直し	育成指標	D④チームマネジメント D⑤危機管理		
講座名	<b>チームで進める危機管理！</b> 教頭研修（オンライン）				
講座の概要	<p style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">参加申込は不要です</p> <p>◆「組織で取組む『いじめ等事案』への対応」について、第一人者の講師から学び、機能するチームを作り、学校づくりの具体について学び、実践への意欲を深めます。</p> <p>※この講義・演習については、B02「校長マネジメント研修」を教頭先生がオンラインで受講します。同様の内容を B07「生徒指導主任等研修」でも扱い、管理職とミドルが同じまなざしで、具体的にチームとして取組むことを目指します。</p> <p><b>【主な内容】 講師：大阪大学 小野田正利 名誉教授</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>講義と演習「いじめ等、児童生徒間トラブルへの対応のあり方」 ※教頭対象にオンライン配信</li> </ol>				

講座番号	B05	日時	4/16 (木) 14:45～	会場	教育文化センター	
研修の種類	指定・希望研修	対象者	新任教務主任★		ライフステージ	Ⅲ
期待される学び	③教師像の問い直し		育成指標	D④チームマネジメント		
	④学校像の問い直し			D⑥カリキュラムマネジメント		
講座名	<b>新任教務主任さん応援講座！</b> 新任教務主任研修					
講座の概要	<p>◆初めて教務主任になった先生方、これまでとは少し違った立場で、具体的に何をすればいいか、どう動いたらいいか、不安が大きいことでしょう。同じ立場の先生方とともに、「心得」や「職務内容」を学んだり、互いに情報交換をしたりしながら、教務主任業務の見通しを持ちつつ、相談できる「仲間づくり」をしましょう！</p> <p>※ 新任ではない教務主任さんも参加OKです！</p> <p><b>【主な内容】 講師：信州大学教職支援センター 荒井英治郎 准教授</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 新任教務主任へのエール（教育監講話）</li> <li>2 教務主任に期待される役割（信州大学荒井英治郎准教授 講義と演習）</li> <li>3 協議・情報交換</li> </ol>					

講座番号	B06	日時	4/9 (木) 15:30～	会場	あがたの森文化会館講堂	
研修の種類	指定研修	対象者	松本に赴任した教職員 (初任者も含む)★		ライフステージ	I～IV
期待される学び	①子ども観の問い直し		育成指標	A 倫理観・使命感、子ども理解		
	②授業観・指導観の問い直し			B 確かな人権意識と共感力		
講座名	<b>「子どもが主人公」ようこそ松本へ！</b> 松本市新任転任教職員研修					
講座の概要	<p>◆初めて松本に来た、数年ぶりに松本に戻ってきた先生方、ようこそ松本へ！「松本の教育ってどんな特徴があるのかな、以前と変わった所はあるのかな」等、期待と不安を持ち赴任したことでしょう。松本市では令和4年2月に松本市教育大綱が制定されました。この教育大綱の理念「子どもが主人公」の実現に向けた「みんなミラ」とはどんなものか、松本市の教職員としての自覚と使命を確認し、明日からの教育実践への意欲を高める機会にしましょう！</p> <p>対象：松本市に新任または転任の教諭・講師・事務職員・養護教諭・養護助教諭 (F01「市費教員等新規採用者合同研修会(4/3)」に出席する市費教員は除く)</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育長講話（松本市の教育が目指すもの「みんなミラ」）</li> <li>2 教育監講話（松本市が願う教師像・非違行為防止）</li> <li>3 教育センター長講話（教員の研修意欲向上）</li> <li>4 感想のシェア（近くの方と本日の感想・松本で実践したい教育等を語る）</li> </ol>					

講座番号	B07	日時	5/12 (火) 13:45～	会場	長野県総合教育センター
研修の種類	指定研修	対象者	生徒指導主任等★	ライフステージ	Ⅲ・Ⅳ
期待される学び	③教師像の問い直し ④学校像の問い直し	育成指標	D④チームマネジメント D⑤危機管理		
講座名	<b>「初期対応から支える学校組織」へ</b> 生徒指導主任等研修				
講座の概要	<p>◆本研修では、いじめ等の児童生徒間トラブルに対し、学校として「確実に」「組織的に」対応する力を高める学びを目指します。この分野の第一人者、大阪大学の小野田正利先生の導きのもと、初期対応や保護者対応における基本を押さえながら、教職員が共通理解のもとで動ける体制づくりを考えます。参加者同士のリフレクションとシェアリングを通して、自校の対応を振り返り、課題を整理し、明日からの実践につながる具体的な手応えと見通しを得ることを目指します。</p> <p>※別日に同内容の研修を校長・教頭が受講します。研修の学びを学校のマネジメント・チームが共有し、諸課題に学校組織として対応する体制の強化をめざします。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <p>1 講義と演習「いじめ等、児童生徒間トラブルへの対応のあり方」 (大阪大学 小野田正利 名誉教授)</p> <p>2 参加者によるリフレクションとシェアリング</p>				

講座番号	期日	時間	会場		
B08	第1回	5/15 (金)	14:30～	教育文化センター	
	第2回	12/18 (金)	14:30～	勤労者福祉センター 大会議室	
研修の種類	指定研修	対象者	研究主任★	ライフステージ	Ⅲ
期待される学び	①子ども観の問い直し ②授業観・指導観の問い直し	育成指標	D⑥カリキュラムマネジメント E⑧指導方法		
講座名	<b>授業改善が進む！研修REデザイン</b> 研究主任研修会Ⅰ・Ⅱ				
講座の概要	<p>◆「学校づくりのミドルリーダーとして、どのように授業改善を推進するか」「対話を重視した校内研修の設計はどのようにするのか」など、研究主任としての自己課題を持っていらっしゃると思います。講師のお話を聞いたり、研究主任同士の対話型ワークショップを体験したりすることを通して、研究推進・校内研修の理論と実践手法を自分のものとして、各校に持ち帰りましょう。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <p>第1回「研修REデザイン ～研修が変われば学校が変わる～」 講師：(株)先生の幸せ研究所 大野 大輔 先生 (元 公立学校教員)</p> <p>第2回「学校づくりのミドルリーダーとして ～3学期・新年度に取組みたいことのチューニング～」 講師：松本市教育委員会 堀内 健 指導主事</p>				

講座番号	B09	日時	4/13 (月) 15:00～	会場	勤労者福祉センター 3-2	
研修の種類	指定研修 (希望研修)	対象者	初めて特別支援教育 コーディネーターに なった方★ 及び改めて学びたい方	ライフステージ	Ⅰ～Ⅲ	
期待される 学び	①子ども観の問い直し		育成指標	E⑧指導方法		
	②授業観・指導観の問い直し			E⑬インクルーシブな教育		
講座名	<b>何から始める？ 1年間何する？</b> 新任特別支援教育コーディネーター研修					参加申込は不要です
講座の概要	<p>◆初めて特別支援教育コーディネーターを任された先生方のための講座です。 特コとして4月にすべきことや、1年間を通じた業務について、特コとしての経験豊富なインクルーシブ教育推進員が丁寧にお伝えします。</p> <p><b>【主な内容】 講師：インクルーシブセンター インクルーシブ教育推進員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特コとして4月にやること</li> <li>・特コの1年間を見通した業務等</li> <li>・特コの校内外での動き方</li> </ul> <p>「初めてではないけれど改めて学びたい！」という方のご参加もお待ちしています。</p>					

## C 専門研修

### 教科等における指導力の向上を図るための研修

講座番号		期日	時間	会場	
第1回	C 01-1	5/22 (金)	15:00~	教育文化センター	
第2回	C 01-2	7/10 (金)		松本市役所大手事務所	
第3回	C 01-3	9/18 (金)		松本市役所大手事務所	
研修の種類	希望研修	対象者	小(中)学校の教員	ライフステージ	I~III
期待される学び	② 授業観・指導観の問い直し		育成指標	E⑦教材研究	
				E⑧指導方法	
講座名	<b>授業をするのが楽しみになる！教材を読み合う学び</b> 松本大学上月先生と学ぶ国語授業づくりゼミ I~III				
講座の概要	<p>◆「非常に実りのある時間でした。普段、一つの教材を読み合い、考えを言いあうことができないので、今回あのように教材研究ができて、非常に勉強になりました。教材に対する考えを沢山話すことで、『お手紙』の授業を早くやりたくなりました。」</p> <p>「叙述の1文1文に注目し、疑問点をいろいろな角度から勉強できました。問いの立て方や授業構想など参考になる点が多く、教材研究をもっとしたくなりました。」            (昨年の参加者の感想より)</p> <p>◆松本大学の上月康弘先生の導きのもと、小学校国語の授業づくりの楽しさを参加者みんなで学ぶ大好評のシリーズ研修です！参加者の先生方と一緒に教材をじっくり読み、いろんな考えを交換することで、教材の見方が深まります。ぜひ一緒に教材を読む楽しさを体験しましょう！            (1回、2回だけの参加もOKです)</p> <p><b>【主な内容】 講師：松本大学教育学部 上月康弘 准教授</b></p> <p>3回シリーズの講座です。各回とも講師の講義・演習と参加者による協議により、教材研究のあり方、授業づくりのポイント等を学びます。</p> <p>第1回 「スイミー」(2年生)            第2回 「たぬきの糸車」(1年生)            第3回 「友達のかべ新聞」(4年生)</p>				

講座番号		期日	時間	会場	
第1回	C02-1	6/25 (木)	15:00～	教育文化センター	
第2回	C02-2	7/16 (木)	15:00～	勤労者福祉センター	
第3回	C02-3	9/17 (木)	15:00～	勤労者福祉センター	
研修の種類	希望研修	対象者	小(中)学校教員	ライフステージ	I～III
期待される学び	②授業観・指導観の問い直し		育成指標	E⑦教材研究	
				E⑧指導方法	
講座名	<b>「なぜ」から始まる社会科授業 基礎基本</b> 小学校社会科授業づくりゼミ I～III				
講座の概要	<p>◆社会の授業ってどうつくるの？という小学校の先生方！          「単元づくり」「暗記中心の授業からの脱却」「教科書の活用法」…など、社会科授業における先生方の悩みに寄り添い、具体的な解決策を提示します。</p> <p>子どもたちの学びを深める単元づくりのコツ、思考力・判断力・表現力を育む授業展開、教科書を効果的に活用するアイデアなどを、実践例を交えながらわかりやすく解説。明日からの授業に役立つヒントが満載です！</p> <p style="text-align: right;">(1回、2回のみ参加もOKです)</p> <p><b>【主な内容】 講師：松本大学教育学部 秋田 真 教授</b></p> <p>3回シリーズの講座です。講師の講義・演習と参加者による協議により、教材研究のあり方、授業づくりのポイント等を学びます。</p> <p>第1回 児童の主体的な学びを意識した授業づくり          第2回 児童の対話的で深い学びを意識した授業づくり          第3回 獲得した知識を転移・応用させる単元構成と授業づくり</p>				

講座番号		期日	時間	会場	
第1回	C03-1	5/1 (金)	14:20~	芝沢小学校	
第2回	C03-2	7/3 (金)	14:20~	寿小学校	
第3回	C03-3	12/4 (金)	14:20~	芝沢小学校	
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I~III
期待される学び	①子ども観の問い直し		育成指標	E⑦教材研究	
	②授業観・指導観の問い直し			E⑧指導方法	
講座名	<b>子どもの姿から学び語り合おう！「算数数学の授業づくり」</b> 算数数学授業づくりセミナーI~III				
講座の概要	<p>◆「佐藤茂太郎先生の授業を実際に見せていただける時間、とても貴重でした。…このようなスタイルでまた来年も続けていただきたいです！」「研修の中で、ふだんお会いすることのない先生方と会話ができるような場面はとてもありがたいといつも思っています！」（昨年参加者の感想より）</p> <p>松本大学の佐藤先生・信州大学の榎本先生と一緒に、「子どもの姿からつくる算数数学の授業」について考え語り合ってみませんか。第5弾となる今年度も「子どもの姿から学ぶ」をコンセプトに、第1回～第3回まで、実際の授業の子ども姿から、算数数学の授業づくりについて考え語り合います。</p> <p>算数の指導に苦手意識をもつ先生方、もっと楽しい算数数学の授業をやりたいという願いをもった先生方も大歓迎です！（1回、2回のみ参加もOKです。）</p> <p><b>【主な内容】 講師：松本大学教育学部 佐藤茂太郎 准教授 第1回・3回</b>  <b>信州大学教育学部 榎本 哲士 講師 第2回</b></p> <p>3回シリーズの講座です。</p> <p>第1回と第3回「子どもの姿を生かした授業づくりと授業を語る会」            芝沢小学校で、講師の佐藤茂太郎先生が授業を公開し、その後講座を実施。            第1回の授業学級は6年生の予定 第3回の授業学級は5年生の予定</p> <p>第2回 寿小の学級担任の先生が授業を公開し、その後、「主体的・対話的な算数数学の授業づくり」について、授業での子ども姿と講師の榎本先生のお話から参加者で考え語り合います。</p> <p>※具体的な単元・学年等につきましては、決定次第チラシ等でお知らせします。</p>				

講座番号		期日	時間	会場	
第1回	C04-1	5/14 (木)	15:00~	教育文化センター	
第2回	C04-2	7/9 (木)		アルプス公園周辺	
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I~III
期待される学び	①子ども観の問い直し		育成指標	E⑦教材研究	
	②授業・指導観の問い直し			E⑧指導方法	
講座名	<b>地域素材をまるまる生かす理科授業づくり</b> 理科授業づくりセミナーI・II				
講座の概要	<p>◆松本ならではの地域素材を生かして、理科の授業づくりをしてみませんか。本研修では、地域素材の魅力に改めて触れながら、教材化や授業展開について、参加者同士で学び合います。体験や実習を中心とした、授業づくりに直結する研修です。理科授業の力量を高めたい先生、地域素材の活用に関心のある先生など、校種や経験年数を問わずおすすめします。 ※1回のみ参加も可能です。</p> <p><b>【主な内容】 講師：教文センター科学博物前館長 一ノ瀬浩子氏・指導主事 他</b></p> <p><b>第1回 松本市の「世界一新しい花こう岩」を知らない人、集合！！</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5/14 (木)</span></p> <p>令和7年10月放送の「ブラタモリ“上高地”」でも話題になった「世界一新しい花こう岩」を教材化します。上高地で採取した岩石を使って観察や実験を行い、上高地の成り立ちについて探究します。生徒の立場での探究活動を体験した後、地域素材をどのように教材化し、授業に生かしていくかを考えます。上高地の岩石を使った花こう岩の授業に挑戦してみましょう。</p> <p><b>第2回 アルプス公園の火山灰を知らない人、集合！！</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7/9 (木)</span></p> <p>アルプス公園周辺の火山灰を、現地で「わんがけ」し、ルーペやデジタル顕微鏡、学習端末（教師用）を用いて観察する実習・講義を行います。現地には「城山タフ」と呼ばれる、クリスタルアッシュ（結晶質火山灰）を含む地層があり、石英や黒雲母をはっきりと観察することができます。あわせて、松本周辺で見られる火山灰についても紹介します。現地で採取した火山灰は持ち帰ることができ、授業ですぐに活用できます。</p> <p>※ 詳細については、参加者決定後に別途通知します。</p>				

講座番号	C05	日時	7/30(木) 9:00~12:00	会場	鎌田地区公民館（講義） 鎌田体育館（実習）
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I~III
期待される 学び	①子ども観の問い直し		育成指標	E⑦教材研究	
	②授業観・指導観の問い直し			E⑧指導方法	
講座名	<b>ターゲット型のゲーム体験・授業づくり</b> ニュースポーツ・パラスポーツ研修				
講座の概要	<p>◆「ターゲット型」のスポーツをご存じですか。パラリンピックで注目を集めた「ボッチャ」や、アウトドアで広まっている「モルック」など、ボール等を特定の的に当てたり近づけたりすることを競うスポーツです。近年、年齢や性別、障がいの有無や運動技能レベルなどを問わず、誰でも気軽に楽しめるスポーツとして人気が高まっています。中学校の体育理論やオリパラ教育、総合的な学習の時間や特別活動などで触れる機会を設けると、夢中になってゲームに取り組む子どもたち姿が広がります。まずは、先生方がその楽しさや奥深さを感じてください。</p> <p><b>【主な内容】 講師：松本大学教育学部 濱田敦志 准教授</b></p> <p>1 前半（座学）ターゲット型ゲームの特性を理解しよう（90分） 会場：鎌田地区公民館（9：00～）</p> <p>2 後半（実習）ターゲット型ゲームを体験して授業に生かそう（90分） 会場：鎌田体育館（座学終了後～12：00）</p> <p><b>【持ち物】</b> 運動ができる服装・タオル・飲み物 等</p>				

講座番号	C06	日時	6/26 (金) 15:00~	会場	勤労者福祉センター 3-3
研修の種類	指定研修	対象者	各校1名(未受講者)★	ライフステージ	I~III
期待される学び	①子ども観の問い直し ②授業観・指導観の問い直し	育成指標	B 確かな人権意識と共感力 E 〈学習指導〉⑦⑧⑨		
講座名	<b>さあチャレンジ！子どもと一緒に考え合う道徳の授業</b> 対話を生かした道徳の授業づくり				
講座の概要	<p>◆「こんなふうに関心を考えたり、授業を組み立てたりしていけばいいんだと『目からウロコ』といった感じではっとさせられました」「子どもと一緒に『人間性とは』を考えていける授業を作りたいと思った。早く道徳の授業やりたい!と思いました」 昨年度、本研修に参加された先生方の感想です。講師の荒木寿友先生は「対話を生かした道徳の授業づくり」の第一人者。先生のお話や演習を通して、対話を生かした道徳のイメージを深めたり、参加者の先生方と互いの考えを語り合ったりしながら、「子どもが主人公」となる道徳の授業づくりを目指します。</p> <p><b>【主な内容】 講師：立命館大学 荒木寿友 教授</b></p> <p>1 講義と演習「対話を生かした道徳の授業づくり」 グループ協議を含む 2 講師によるまとめとリフレクション</p> <p>※原則として初めて受講する先生方が対象です。2名以上の参加希望がある場合は、ご相談ください。</p>				

講座番号	C07	日時	5/18(月) 15:00~	会場	教育文化センター
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I~III
期待される学び	②授業・指導観の問い直し ④教師像の問い直し	育成指標	E ⑭探究の学び C②地域をフィールドとした学びづくり		
講座名	<b>「探究の学び」を支える教師とは？</b> 畔上先生と深める「探究の学び」観				
講座の概要	<p>◆「新たな学びのスタイル」として、実践が求められる「探究的な学習」。子どもたちが主体的に学びに踏み出すために、私たちは、どのように子どもたちに寄り添うのか、どのように子どもたちの学びを「みる」のか。探究を支える教師の「観」を畔上先生の導きで深めていきます。</p> <p>「探究の学び」で目指す力、その具体的な姿について認識を深めるとともに、「探究の学び」を引き出す教師の支援のあり方についての知見を得、ご自身の実践への意欲を高めていただくことを目指す講座です。</p> <p><b>【主な内容】 講師：長野短期大学 畔上一康 学長</b></p> <p>1 講師による講義と演習 「探究の学び」により身につく力 その必要性 具体的な子どもの姿 「探究の学び」を引き出す教師のあり方 実践事例の紹介 等</p> <p>2 参加者による協議</p>				

講座番号	C08	日時	6/9(火) 15:00~	会場	勤労者福祉センター
研修の種類	希望研修	対象者	中学校教員	ライフステージ	I~III
期待される学び	②授業観・指導観の問い直し		育成指標	E⑦教材研究 ⑧指導方法	
				E⑩個への指導⑪集団における指導	
講座名	<b>「探究」を引き出すインスパイア・ハイ活用ワークショップ</b> インスパイア・ハイを活用する				
講座の概要	<p>◆「生徒が総合の時間にテーマをどう設定するか…」迷っている先生へ          インスパイア・ハイは「探究の種」の宝庫です。しかし、「動画をただ見せる」だけでは、生徒の活動は深まりません。</p> <p>本研修では、難しい探究の理論ではなく、「どう使えば生徒が前のめりになり、自ら探究テーマを発見するか」の具体的なポイントを考えます。「テーマ設定が難しい」「生徒の問いが浅い」といった総合の課題を解消し、「活用が難しい」を「テーマ設定が楽になった!」に変えるきっかけを探っていきましょう!</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○インスパイア・ハイを「テーマ設定」の強力なフックとして使いこなし、生徒の本質的な探究の問いを引き出す『15分導入フック』について考える。</li> <li>○自分の総合的な学習の年間テーマに合わせた「15分間の導入シナリオ」を実際に作成する。</li> </ul>				

講座番号	C09	日時	6/11(木)	会場	寿小学校
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I~IV
期待される学び	①子ども観の問い直し		育成指標	E⑦教材研究	
	②授業観・指導観の問い直し			E⑧指導方法 ⑨学習評価	
講座名	<b>あの子どもこの子ども大満足！単元内自由進度学習</b> 実践校に学ぶ「単元内自由進度学習」（寿小）				
講座の概要	<p>◆令和5・6年度の「松本市リーディングスクール事業」指定校として「単元内自由進度学習」に取り組んできた寿小学校。本研修は、参加された先生方に実際の授業を参観いただいた後、ガイダンス（学習の手引き・目標）や学習カード、学習環境づくりのポイント・留意点などを授業者や寿小の先生方に質問し、「単元内自由進度学習」実践へのヒントを得られる講座です。「単元内自由進度学習へトライしたいけど進め方がわからない」「もっと子どもに授業を委ねたい」と考えている先生方。ぜひ参加し一歩踏み出してみませんか!</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 単元内自由進度学習の授業参観</li> <li>2 具体的な子どもの姿や単元内自由進度学習を進めていく上でのポイント</li> <li>3 グループ協議と意見交換</li> </ol> <p>※内容・日程の詳細は実践校と協議し、後日お知らせします。</p>				

講座番号	C10	日時	7/15 (水)	会場	並柳小学校
研修の種類	指定研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I~III
期待される 学び	③教師像の問い直し		育成指標	D③セルフ・マネジメント	
	④学校像の問い直し			D④チーム・マネジメント	
講座名	<b>追体験と対話で探る！「自走する学びの現場」</b> 実践校に学ぶ「校内研修づくり」(並柳小)				
講座の概要	<p>◆「ただ聞く研修」から卒業しませんか？</p> <p>並柳小学校の校内研修は、参加者が「自ら学び、成長を実感する」現場であり、その熱量はすばらしいです。本研修は、単なる報告を聞くだけでなく、実際に並柳小学校の研修に「参加者」として加わり、その臨場感と熱気を五感で感じていただく追体験型の研修です。</p> <p>最大の魅力は、現場のキーパーソンとの「対話」。企画を牽引する研究主任と副主任のタッグの裏側や、自走化に至るまでの苦労と工夫を、参加直後の熱が冷めないうちに直接質問・対話する時間があります。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <p>①並柳小学校の実際の校内研修に参加し、研修の進め方、教師の対話の様子などを体験的に学ぶ。</p> <p>②研究主任、副主任、校内の先生方（可能なら）と参加者との対話。抱いた疑問や、自校の課題と照らし合わせた質問を投げかけ、並柳小学校の研修の企画・運営の「意図」と「秘訣」について深く掘り下げる。</p> <p>③参加者同士で対話の内容を共有し、「並柳小の学びを自校でどう活かせるか」という具体的なアクションプランを検討・発表する。</p>				

講座番号	C11	日時	10/30 (金)	会場	開智小学校
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I~III
期待される 学び	①子ども観の問い直し		育成指標	D⑥カリキュラムマネジメント	
	②授業・指導観の問い直し			E⑧指導方法	
講座名	<b>子どもの姿に学ぶ「探究」。開智小の授業と組織づくり</b> 実践校に学ぶ「探究の学び」(開智小)				
講座の概要	<p>◆「探究的な学び」をどう進めればよいか悩んでいませんか？風越学園の支援を受け、学校全体で変革に取り組んだ開智小学校の授業から学ぶ講座を開催します。</p> <p>子どもの生き生きとした姿から探究の具体像を掴み、その裏にある「職員研修」やカリキュラム調整の工夫をワークショップ形式で体験。</p> <p>自校での実践に直結するヒントと、明日への意欲が必ず見つかる講座です。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <p>1 「探究の学び」(生活・総合)の授業参観</p> <p>2 実践発表(「探究」を中核にした学校づくりの具体やエピソードを、開智小学校の先生から聞いたり、校内研修をワークショップ的に体感したりします(予定))</p> <p>3 協議・情報交換</p> <p>※内容・日程の詳細は実践校と協議し、後日お知らせします。</p>				

講座番号	期日		時間	会場	
C12	第1回	4/17 (金)	15:30~	オンライン	
	第2回	6/2 (火)			
	第3回	8/20 (木)			
	第4回	10/8 (木)			
	第5回	12/10 (木)			
	第6回	2/9 (火)			
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I~IV
期待される学び	①子ども観の問い直し		育成指標	B 確かな人権意識と共感力	
	②授業・指導観の問い直し			E⑩個への指導	
講座名	<b>「自分を大切にできる力」を育む1年間の学びを創る</b> 生徒が自己肯定感を高める授業づくり研修 <span style="float: right;">別途にて参加申込</span>				
講座の概要	<p>◆気鋭の心理学者、高橋史先生が開発された「生徒が自己肯定感を高める授業プログラム」を年間を通じて継続実施し、生徒が様々な状況の中で自己・他者を理解し、自分のよさを認識し続ける力を高めることを目指す、授業実践と連動した講座です。</p> <p>具体的には、研修参加者が高橋先生より提供される「授業プログラム」を約2か月に1回、年間6回、各校の道徳の授業の中で実践します。（各プログラムは、道徳の「内容項目」に対応しています）</p> <p>各実践の前後でオンラインによるミーティング（研修）を実施し、高橋先生より授業実践上の留意点の説明、質問への対応等の支援を受けたり、参加者同士が情報交換したりできる機会を持ちます。実践終了後、振り返りを行います。</p> <p>授業の対象は中学校1年生を基本としますが、ほかの学年・小学校（4年生以上）もOKです。</p> <p>研修及び授業実践には学校単位（学年全学級）でご参加ください。 ※6回すべての受講をお願いします。</p> <p><b>【主な内容】 講師：信州大学教育学部 高橋 史 准教授</b></p> <p>第1回 4/17 スタートアップ 5月実施授業の説明・質疑 （5月 第1回授業実践）</p> <p>第2回 6/2 前回授業の振り返り 7月実施授業の説明・質疑 （7月 第2回授業実践）</p> <p>第3回 8/20 前回授業の振り返り 9・10月実施授業の説明・質疑 （9月 第3回授業実践） （10月 第4回授業実践）</p> <p>第4回 10/8 前回授業の振り返り 11月実施授業の説明・質疑 （11月 第5回授業実践）</p> <p>第5回 12/10 前回授業の振り返り 1月実施授業の説明・質疑 （1月 第6回授業実践）</p> <p>第6回 2/9 前回授業および1年間の実践の振り返り （2月 教職員・生徒向けアンケート調査実施）</p>				

講座番号	C21	日時	5/28 (木) 7:45～16:00	会場	美ヶ原高原
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I～III
期待される学び	②授業観・指導観の問い直し ③教師像の問い直し	育成指標	C②地域をフィールドにした学びづくり E⑦教材研究		
講座名	<b>美ヶ原へGo! 見て、聞いて、触って教材化!</b> 美ヶ原フィールドワーク				
講座の概要	<p>◆美ヶ原でのフィールドワークを通して、地質や動植物などを実際に見て・聞いて・触れながら学び、地域素材をどのように教材化できるかを考える実地研修です。昨年度の参加者からは、「美ヶ原学習の前に参加でき、学びが深まったことで、子どもたちと行くのがより楽しみになった」「現地で撮影した”イチオシショット”を使って、子どもたちとの対話が広がった」「下見では見逃しがちな美ヶ原ならではの特徴や自然の不思議に気づくことができた」と大好評でした。現地で直に学べる機会です。初めての方もベテランの方も新発見・再発見、感動、間違いなし!</p> <p><b>【主な内容】 講師：教文センター科学博物館前館長 一ノ瀬浩子氏・指導主事他</b> ・教育文化センターから市のバスで⇒山本小屋→美しの塔→烏帽子岩→玉ヶ頭→玉ヶ鼻→長野県美ヶ原自然保護センター⇒市のバスで教育文化センターへという約5kmの道のりを歩くコースを予定しています。</p> <p>「美ヶ原ってどうやってできた?」「鉄平石って何?」「美ヶ原の動植物とは?」他</p> <p><b>【留意事項】</b> 定員 20 名。少雨決行。フィールドワークの支度が必要です。詳細については参加者決定後に別途通知します。各校の下見を兼ねることはできません。</p>				

講座番号	C22	日時	6/18 (木) 9:00～16:00	会場	四賀地域
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I～III
期待される学び	②授業観・指導観の問い直し ③教師像の問い直し	育成指標	C②地域をフィールドにした学びづくり E⑦教材研究		
講座名	<b>四賀は自然のお宝満載! 見て、聞いて、触って教材化!</b> 四賀フィールドワーク				
講座の概要	<p>◆松本市四賀地区は、クジラ化石をはじめ、地質の成り立ちがよくわかる地層が数多く見られる、地質分野の素材の宝庫です。松本市の”お宝”を、小学校6年生や中学校1年生の理科の授業に生かしてみませんか。本研修では、現地でのフィールドワークを通して地域素材の教材化を考えます。昨年度の参加者からは「教科書に出てくるような逆断層を実際に動画で撮影できた」「四賀キャニオンと西条炭、善光寺街道が結びついて理解できた」などの声が寄せられ、理科以外の先生方の参加も多い研修となりました。今年は化石館の学芸員さんの展示解説等も計画中です。新発見・再発見、感動、間違いなし!!</p> <p><b>【主な内容】 講師：教文センター科学博物館前館長 一ノ瀬浩子氏・指導主事他</b> ・四賀化石館に集合し、市のバスで⇒穴沢峠（逆断層・玉ねぎ状風化）⇒四賀キャニオン（砂岩層等）⇒穴沢豆岩・クジラ化石⇒四賀化石館⇒保福川（化石採取体験）⇒四賀化石館で解散（研修後に化石館のさらなる見学も可能）</p> <p>「地層や化石からわかることって?」「ここは昔はどんな場所だったの?」他</p> <p><b>【留意事項】</b> 定員 20 名。少雨決行。フィールドワークの支度が必要です。詳細については参加者決定後に別途通知します。各校の下見を兼ねることはできません。</p>				

講座番号	C23	日時	11/6(金)14:00～	会場	松本市立博物館と周辺	
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	Ⅰ～Ⅲ	
期待される 学び	②授業観・指導観の問い直し		育成指標	C②地域をフィールドにした学びづくり		
				E⑦教材研究		
講座名	<b>かつての松本城下町の「暮らし」を歩いてみよう</b> 松本のまちフィールドワーク					
講座の概要	<p>◆松本城下町には、城が築かれた当時の人々の知恵と工夫、そこにある暮らしが、今なお「痕跡」として残されています。しかし、その痕跡は、専門家の視点なくしては見過ごされてしまいがち！そこで、本研修は、城下町研究の専門家によるガイドで、松本城下町を巡る「フィールドワーク」です。専門家の解説と、当時の古地図・史料を重ね合わせることで、これまで「風景」だったものが、すべて「生きた歴史教材」に変わります。</p> <p>社会科でいえば、小3の「地域の様子の移りかわり」小4の「地域の伝統と文化、先人の働き等」、中学校の戦国時代や江戸時代で使えそう！総合的な学習の時間のヒントもありそうです。</p> <p><b>【主な内容】 講師：文化財課 上條 昌明 氏</b></p> <p>城下町を散策し、当時の暮らしや文化、街の発展の経緯を学びます。</p>					

講座番号	C24	日時	7/10(金)15:15～	会場	開智小学校	
研修の種類	希望研修	対象者	ICT端末を授業で活用する経験が少なかったり、不安を感じていたりする教員		ライフステージ	I～IV
期待される学び	①子ども観の問い直し		育成指標	E⑧指導方法		
	②授業・指導観の問い直し			E⑫ICT活用		
講座名	<b>きほんの「き」から始める ICT 端末操作</b> ICT 活用 一人一台端末操作研修（基礎編）					
講座の概要	<p>◆ ICT 端末内のアプリにあまり触れたことのない先生を対象に、アプリに関する基本的な操作を「ゼロ」から順を追って説明します。ICT 支援員の方々も一緒にフォローしますので、操作に不慣れな方にも安心してご参加いただけます。先生が授業でお使いの端末を持参して、準備の手順や授業の展開に沿って実際に端末の操作に挑戦してみましょう！先生方からの質問にもお答えします！</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <p>以下のようなブースを設置し、参加者に選んでいただきます。</p> <p>ア Google スプレッドシート</p> <p>前半：はじめてのスプレッドシート（関数ブース、セルブース、グラフブース）</p> <p>後半：スプレッドシートで自分の学習カードをつくろう、児童生徒と共有しよう</p> <p>イ ロイロノート</p> <p>前半：提出回収方法、カードの作り方、アンケートの取り方</p> <p>後半：記述式、選択式のミニテストを作成しよう</p> <p>ウ Canva for Education</p> <p>前半：自己紹介カード作成体験（画像挿入、テンプレート検索、画像生成等）</p> <p>後半：ご自身が作成したい資料づくり（学級だより、パンフレット、新聞など）</p> <p>エ Google Classroom</p> <p>前半：操作体験（課題配信、回収方法などを児童生徒役で体験）</p> <p>後半：配付課題の作成（Google スライド）&amp;児童生徒への配付方法について</p> <p><b>【持ち物】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・充電済の Chromebook（教師用）</li> <li>・ご自身のアカウント情報</li> </ul>					

講座番号	C25	日時	11/13 (金) 15:00～	会場	オンライン開催
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I～III
期待される 学び	①子ども観の問い直し		育成指標	E ⑦教材研究	
	②授業・指導観の問い直し			E ⑫ ICT活用	
講座名	<b>一人一台端末活用で広がる授業デザイン</b> ICT活用 一人一台端末を活用した授業づくり				
講座の概要	<p>◆「他のクラスはどうやって授業しているの?」「クラウドを活用した授業づくりについて知りたい」等、一人一台端末の活用方法が気になっている先生、子どもたちの自律的な学びなどに関心をもち始めた先生方におすすめの講座です。松本市のICT環境で実施可能な全国の実践にふれることができます。これまで当たり前だと思っていた授業観の更新にもつながるはずです。</p> <p>※研修内容は、令和8年度 ICT 教育の状況を踏まえて決定します。</p> <p>【R7年度に実施した研修内容】  <b>講師：文部科学省初等中等教育局 GIGA StuDX 推進チーム</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>GIGA スクール構想や全国の実践事例にふれながらICT活用のポイントを知る</li> <li>校務DX、生成AIを活用した授業実践について</li> <li>参加者との情報交換後、ご自身の授業づくりを構想する</li> </ol> <p>【お手元に準備いただく物】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師用一人一台端末（操作用）・視聴用ICT端末（推奨）・教師用アカウント情報</li> <li>研修実施の1週間前を目安に、クラスルームを開設する予定です。</li> </ul>				

**D 課題別研修** 多様な教育課題の解決に必要な資質・能力を身につけ、学校教育の活性化を図るための研修

講座番号	D01	日時	5/8(金) 13:30～	会場	勤労者福祉センター 3-3
研修の種類	指定研修	対象者	各校1名★	ライフステージ	I～III
期待される学び	①子ども観の問い直し ③教師像の問い直し	育成指標	E⑩個への指導 E⑪集団における指導		
講座名	<b>全ての子どもを支える教師の関わり</b> 不登校児童生徒の理解と支援				
講座の概要	<p>◆不登校の背景は、多様で複雑なために、どのように支援したらよいのだろうかという悩みはつきません。本講座では、複雑な要因を認知行動療法という科学的な視点から紐解き、教師の関わりを理解し、各校で実践することを目指します。係の先生だけでなく、すべての先生におすすめです！</p> <p><b>【主な内容】 【講師】 信州大学学術研究院教育学系 高橋史 准教授</b></p> <p>以下について、講義と実際の対応を学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 不登校児童生徒の心身の状態の理解と支援</li> <li>2 不登校のリスクのある児童生徒への対応</li> <li>3 不登校の状態にある児童生徒への対応</li> </ol> <p>※原則として初めて受講する先生が対象。2名以上参加希望の場合は相談ください。</p>				

講座番号	D02	日時	6/5 (金) 15:30～	会場	インクルーシブセンター 3F 大会議室
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I～IV
期待される学び	①子ども観の問い直し ③教師像の問い直し	育成指標	E⑩個への指導 E⑬インクルーシブな教育		
講座名	<b>「合理的配慮のイロハ」</b> 特別支援教育研修Ⅰ				
講座の概要	<p>◆「発達に特性がある児童生徒への対応はどうしたらよいの？どう支援したらいいの？」先生方は日々考えていることでしょう。</p> <p>インクルーシブ教育推進員が各学校を訪問した際、目にした各学校の合理的配慮・基礎的環境整備、あたたかさあふれる支援など、工夫に満ちた学校現場事例を紹介。具体的な支援を考えるきっかけとなる、明日への元気につながる講座です。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 松本市内小・中学校を中心とした事例の紹介</li> <li>2 「合理的配慮」について</li> </ol>				

講座番号	D03	日時	7/31 (金) 10:00~15:30	会場	インクルーシブセンター 3階大会議室
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I~III
期待される 学び	①子ども観の問い直し ③教師像の問い直し	育成指標	A 高い倫理観と使命感、子ども理解 E ⑩個への指導		
講座名	<b>感じること(疑似体験)・理解すること(講義)から</b> 特別支援教育研修Ⅱ 障がいの理解と合理的配慮				
講座の概要	<p>◆「発達に特性がある児童生徒への対応はどうしたらよいの？」と日々悩んでいる先生方！ななこネットの先生方による学びにくさがある子の疑似体験を通して、困り感に寄り添う午前の部と、かとうメンタルクリニックの樋端佑樹氏による講義をじっくりお聞きする午後の部による二部構成の研修会。じっくり学び、体験して、支援のあり方について考えます。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>午前：疑似体験（松本圏域特別支援学校専門サポートチームによる）</li> <li>午後：子ども理解と保護者支援についての講義 (かとうメンタルクリニック 樋端佑樹 氏)</li> </ol>				

講座番号	D04	日時	12/3 (木) 15:00~	会場	勤労者福祉センター大会議室
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I~III
期待される 学び	①子ども観の見直し ②授業観・指導観の問い直し	育成指標	B 確かな人権意識と共感力 E 「教育のプロ」高度な知識や技能		
講座名	<b>教えて！本田先生！！ Vol 7</b> 特別支援教育研修Ⅲ 障がいの理解と支援				
講座の概要	<p>◆発達障がいの子どもに対する理解や支援についての基本的な事柄を学ぶ、本田先生シリーズ待望の第7弾！受講者の質問に本田先生が答えてくださいます。司会の宮内かつら氏との温かいやり取りも必見です。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <p>講師：信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室 本田秀夫 教授 ファシリテーター：長野県発達障がい情報・支援センター 宮内かつら 副センター長</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>参加者から事前に寄せられた質問に対し、講師にお答えいただく。</li> <li>質疑応答</li> </ol> <p>参加者は事前アンケートにお答えいただきます</p>				

講座番号	D05	日時	2/5 (金) 15:00～	会場	勤労者福祉センター 3-3
研修の種類	指定研修	対象者	知障学級担任★ (各校1名以上)	ライフステージ	I～III
期待される 学び	①子ども観の問い直し ②授業観・指導観の問い直し	育成指標	E⑧指導方法 E⑩個への指導		
講座名	<b>みんなどうしてる!?生活単元学習</b> 特別支援教育研修IV				
講座の概要	<p>◆「生活単元学習って何をすればいいかわからない」「いつも同じ活動ばかりでマンネリ気味…」そんな先生方のお役に立つこと間違いなし！です。 年間計画の立て方や単元構成の仕方について学びます。また知障学級の教室環境や教材のアイデアを写真等を使ってグループで共有します。</p> <p><b>【主な内容】 講師：長野県松本支援学校の先生（未定）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク（撮影した写真等を使って生活単元学習のアイデアを共有）</li> <li>・全体講義「生活単元学習の位置づけ」「年間計画の立て方」「単元構成の仕方」等生活単元学習の基本的な事柄について</li> </ul> <p>※参加者は、事前にタブレットで教室環境や教材、活動の様子等を撮影する</p>				

講座番号	D06	日時	9/8 (火) 14:00～	会場	勤労者福祉センター
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I～IV
期待される 学び	①子ども観の問い直し ④学校像の問い直し	育成指標	A 高い倫理観と使命感、子ども理解 B 確かな人権感覚と共感力		
講座名	<b>木村泰子先生と創る、子どもの権利が息づく学校の未来</b> 「松本市子どもの権利に関する条例」研修				
講座の概要	<p>◆映画『みんなの学校』で知られる木村泰子先生をお迎えし、松本市の宝である「子どもの権利に関する条例」を、学校現場でどう生かすか本気で考える特別な研修です。</p> <p>条例は単なるルールではなく、すべての子どもの学習権を保障し、教職員も元気になれる学校をつくるための「羅針盤」です。木村先生の情熱的な導きのもと、参加者同士で理想の学校像を語り合い、明日から自校で踏み出せる具体的な「最初の一步」を一緒に見つけませんか。</p> <p>悩みや希望を共有し、研修後も支え合える仲間との出会いも大きな財産になります。子どもが主語になる学校づくりへ、あなたの参加をお待ちしています。</p> <p><b>【主な内容】 講師 大阪市立大空小学校 木村泰子 初代校長</b></p> <p>講師の木村先生とともに、車座形式で対話しながら次のような学びをすすめます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「松本市子どもの権利に関する条例」を読み合い、思いを交流する。</li> <li>2 「条例」を窓口に自校の状況を振り返る。</li> <li>3 自校でできる「小さな一步」を参加者みんなでき考え合う。</li> </ol>				

講座番号	D07	日時	9/15（火）15：00～	会場	勤労者福祉センター
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I～III
期待される学び	①子ども観の問い直し		育成指標	B 確かな人権意識と共感力	
講座名	<b>違いを力に、誰もが自分らしく</b> 性の多様化と学校での合理的配慮				
講座の概要	<p>◆「性の多様性」という言葉は知っているけれど、具体的に生徒から相談があったら？「男の子・女の子」の二元論が通用しない現代で、教師としてどう接し、どう配慮すれば良いのか、迷っていませんか？</p> <p>この研修は、人権共生課の専門的な知見と、教育現場の具体的な困りごとを結びつける実践プログラムです。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <p>○多様な文化・性を生きる子どもたちの人権を守り、すべての子どもが安心して学べる学校環境を整備するために、「基礎知識の共有」と「具体的な配慮の実践」に焦点を当てた研修。</p> <p>○人権共生課との連携により、専門的な知見に基づいた最新かつ適切な対応を学ぶ。</p>				

講座番号	D08	日時	10/1（木）13：30～	会場	勤労者福祉センター
研修の種類	指定研修	対象者	小中学校教員 各学校1名★	ライフステージ	II・III
期待される学び	①子ども観の問い直し		育成指標	E ⑤⑥生徒指導	
講座名	②授業・指導観の問い直し			E ⑫ ICT活用	
講座の概要	<b>デジタルメディアの「善き使い手」を育む</b> デジタル・シティズンシップ教育研修				
講座の概要	<p>◆端末の持ち帰りや SNS トラブルへの対応に、「制限」や「禁止」だけで対処していませんか？今求められているのは、生活に不可欠なデジタル機器およびデジタルメディアを積極的に活用しながら、他者と共生する力を育む「デジタル・シティズンシップ教育」です。</p> <p>本研修では、この分野の第一人者であり実践経験豊富な今度珠美氏をお招きし、単なる情報モラルにとどまらず、人権や道德教育の視点から、子どもがデジタルの「善き使い手」となるための授業づくりを具体的に学びます。</p> <p>「知識は力」を合言葉に、子どもたちがトラブルに賢く対処し、社会とつながるための実践的な指導法を持ち帰りましょう。</p> <p>★各校1名の参加をお願いします。（※未受講の方が受講ください）</p> <p><b>【主な内容】講師：鳥取県デジタル・シティズンシップ・エデュケーター 今度珠美氏</b></p> <p>○講義と演習を通して、以下のような内容を学びます。</p> <p>・デジタル・シティズンシップの概念を理解する。・授業の実践事例を具体的に学び、「人権教育」「道德」をも含んだ「市民性教育」について理解を深め実践への意欲を高める。</p>				

講座番号	期日	時間	会場
D09	5/21 (木)	14:00~	教育文化センター
	10/9 (金)		勤労者福祉センター
研修の種類	指定研修	対象者	教務主任等各校1名★ ライフステージ III・IV
期待される 学び	③教師像の問い直し	育成指標	D④チームマネジメント
	④学校像の問い直し		D⑥カリキュラムマネジメント
講座名	<b>チームで子どもの学びをマネジメント！</b> カリキュラムマネジメント研修Ⅰ・Ⅱ		
講座の概要	<p>◆「田村先生のお話からカリキュラムマネジメントにあたっては、『どんな子どもにしたいのか』の視点を全職員で共通認識した上でマネジメントをしていく必要があることを学びました」「先生方の実践レポートは、毎年とても勉強になります。あの冊子は宝です。…実践されている他校の先生方のすごさを感じられる研修になっています」「他校の先生方の『小さな一歩』の実践をお聞きし、今年度すぐに実践してみたいことや、来年度、チャレンジしてみたいことが具体的に見たり話を聞いたりすることができ有意義な時間となった。…同じ立場の先生同士で情報共有することは大変意義あるものだった。」…。昨年度本研修に参加された先生方の感想です。</p> <p>「仲間と力を合わせ学校づくりにチャレンジするには？」と悩んだり困ったりしている先生方、この機会に実践に向け、一歩踏み出してみませんか。集まった参加者とともに、陸奥田先生と田村先生の講義から「学習指導要領の理念を中核においたカリキュラムマネジメントとは」「組織でカリキュラムマネジメントに取り組む方策」等の知見を学び、実践の方向や課題、成果等を語り合いながら、学校づくりの方向を管理職や同僚の先生方と協議し考え合い、一歩前進する取組み（＝カリキュラムマネジメント）を実践していきます。</p> <p>講義と実践のセットにより、各校での具体的な実践を通して、参加者に「組織で取り組む」知見と経験を積み上げることを目指す「実践講座」です。</p> <p><b>【主な内容】</b>  <b>2回シリーズの講座です。2回両方に出席いただきます。</b>  第1回：講師による講義と演習（大阪教育大学 陸奥田維彦 特任教授）  参加者によるグループ協議（実践の交流、悩みの相談、今後の取組等）。  ※第1回研修後、学校づくりの方向を管理職と相談し、仲間を巻き込み「小さな一歩の実践」に取り組む。  第2回：講師による講義と演習（早稲田大学 田村知子 教授）  参加者同士の「小さな一歩の実践」の発表とグループ協議。その後講師からまとめの助言。</p>		

講座番号		期日	時間	会場	
第1回	D10-1	4/21 (火)	15:00～	教育文化センター	
第2回	D10-2	5/29 (金)	15:00～	教育文化センター	
第3回	D10-3	7/9 (木)	15:00～	勤労者福祉センター	
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I～III
期待される学び	③教師像の問い直し		育成指標	D③セルフ・マネジメント	
	④学校像の問い直し			D④チーム・マネジメント	
講座名	<b>「聴く」から始まる、活気ある職員室のつくり方</b> 「対話する職員集団を創る」ワークショップ I～III				
講座の概要	<p>◆みんなが集まる職員室が、重苦しい空気ではなく、お互いの教育観を語り合える・日常の話題が飛び交う「学びの場」だったら、どうなるでしょうか？  「集団作りに関心はあるけれど、何をすればいいかわからない」と感じている先生方、その解決の鍵は「対話」にあります。本研修では、難しい理論は抜きにして、明日からすぐに使える対話の「型」と「心構え」を90分×3回で考えます。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> 第1回：対話の「土台」を築く：心理的安全性と傾聴の力 第2回：対話を「深める」技術：質問・フィードバック・構造化 第3回：対話を「文化」にする：日常での活用と次の一歩				

講座番号		期日	時間	会場	
第1回	D11	4/28 (火)	15:00～	教育文化センター	
第2回		2/18 (木)		勤労者福祉センター	
研修の種類	希望研修	対象者	研修づくりに関心のある先生	ライフステージ	I～III
期待される学び	③教師像の問い直し		育成指標	D③セルフ・マネジメント	
	④学校像の問い直し			D④チーム・マネジメント	
講座名	<b>今年は校内研修プロデューサーへシカ!</b> 「校内研修を創る」ワークショップ season2 I・II				
講座の概要	<p>◆「研修の基礎は学んだけど、自校で実践しようとする、これでいいのか不安になる…」そんな悩みを持つ先生に向けた、「伴走型・共創コミュニティ」としての研修が始まります。昨年度（校内研修を創る研修）は、研修の土台との3ステップを体験的に学びました。Season2では、その「型」を武器に、仲間とともに自校の研修をアップデートしていきます。</p> <p>昨年度参加していなかった先生もご安心ください。基礎的な型を共有するフォローアップも行います。「研修実践者同士のネットワーク」の中で、一人では辿り着けない「より良い研修」を一緒に創り上げていきましょう。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> 第1回：キックオフ&アクションプラン！ 第2回：実践報告&実践知の見える化 <p>※年間を通じて、参加校と非同期でやり取りをしながら、お互いの研修を共有します。</p>				

講座番号	D21	日時	各校の希望日時	会場	各学校
研修の種類	訪問型研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I～IV
期待される 学び	①子ども観の問い直し		育成指標	D⑥カリキュラムマネジメント	
	②授業・指導観の問い直し			E⑬インクルーシブな教育	
講座名	<b>専門家と伴走する一年！チームで描く「あの子」の笑顔</b> <b>【訪問型】特別支援教育研修</b> <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">別途にて参加申込</div>				
講座の概要	<p>◆特別支援教育の専門性の高い講師が、学校を年数回訪問し、実際の教室での様子を踏まえて具体的かつ継続的に取組みをサポートする「訪問型研修」です。</p> <p>個別の事案解決にとどまらず、全職員で研修・相談を重ねることで、学校全体の子ども観が変わり、通常学級におけるインクルーシブ環境が確実に向上することを目指します。「困り感」を抱える子どもへの対応を全教職員で共有し、誰もが安心して学べる環境を組織として構築しましょう。</p> <p>一人で抱え込まず、専門家と仲間と共に歩むことで、学校全体の支援力が底上げされる手応えをともに体感しましょう。</p> <p>※校数限定。後日お届けする申込書によりお申し込みください。</p> <p><b>【主な内容】 講師：長野県発達障がい情報・支援センター 宮内かつら 副センター長 長野県寿台養護学校教育相談担当 倉澤輝巳 先生</b></p> <p>○高い専門性をもった講師の先生が継続的に学校を訪問し職員とともに子どもに寄り添った支援のあり方等について考え、それを学校全体で共有することで学校全体のインクルーシブ環境づくりの実践力を高めます。</p> <p>・全学級の授業参観と各担任等との懇談 ・全校職員への研修 等</p>				

講座番号	D22	日時	10/2（金）	会場	実施校
研修の種類	訪問型研修	対象者	希望する学校※	ライフステージ	I～IV
期待される 学び	① 子ども観の問い直し	育成指標	E ⑤⑥生徒指導		
	② 授業・指導観の問い直し		E ⑫ ICT活用		
講座名	<b>デジタル・シティズンシップ教育を学校現場で学ぶ</b> 【訪問型】 デジタル・シティズンシップ教育研修				別途にて参加申込
講座の概要	<p>◆AIの浸透が劇的に進むなど、デジタル・シティズンシップ教育の必要性が一層高まっています。実際に、講師の先生を学校に迎え、講師による授業実践・授業参観や先生向けの講話等を通して、どのような授業で、どのような子どもの姿を目指すのかを実感いただく機会を作りました。</p> <p>デジタル機器およびデジタルメディアを積極的に活用しながら、自己及び他者の人権を尊重し、よりよい社会関係を築いていく「デジタル・シティズンシップ」の概念とイメージを子どもの姿を通して全教職員で共有し、学校をあげて実践へ踏み出すきっかけを作ることができる、貴重な機会です。</p> <p>※他校の先生も、奮ってご参加ください。</p> <p><b>【主な内容】 講師：鳥取県デジタル・シティズンシップ・エドゥケーター 今度珠美 氏</b></p> <p>○講師の学校訪問により以下のような取り組みを実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施校の先生による授業実践（講師による授業参観と講評）</li> <li>・講師による授業実践</li> <li>・教職員向けの講演 等</li> </ul> <p>※日程、内容は実施校との協議の上決定します。</p>				

講座番号	D23	日時	学校の希望日	会場	各学校	
研修の種類	訪問型研修	対象者	小中学校教員		ライフステージ	I～IV
期待される学び	③教師像の問い直し		育成指標	D⑤危機管理		
	④学校像の問い直し					
講座名	<b>保護者の期待に応える！信頼される学校対応</b>					<b>別途にて参加申込</b>
<p style="text-align: center;">【訪問型】 接遇・対応力向上研修</p>						
講座の概要	<p>◆予想しないような突然の外部からの問い合わせ。応答の仕方によって、その後の学校の信頼が大きく左右されることがあります。同じ職場の先生方とともに、信頼を得られる対応の仕方について学び合いましょう。電話での応答場面、直接対面する場面等、学校の希望に応じた研修も可能です。</p> <p><b>【主な内容】</b>（時間は60分から90分の範囲で調整が可能です！）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 この対応何がまずいの？（グループ討議）</li> <li>2 自分ならこう対応するな（個人追究）</li> <li>3 ロールプレイで試してみよう（グループ討議）</li> <li>4 保護者の信頼を得るために考えなくてはいけないこと (指導主事による講義)</li> </ol>					

講座番号	D24	日時	学校の希望日	会場	各学校	
研修の種類	訪問型研修	対象者	講師		ライフステージ	I
期待される学び	①子ども観の問い直し		育成指標	E⑦教材研究⑧指導方法		
	②授業・指導観の問い直し			E⑩個への指導⑪集団における指導		
講座名	<b>教職の「イロハ」を学ぶ ～学習指導・生徒指導・学級運営の基本～</b>					<b>別途にて参加申込</b>
<p style="text-align: center;">【訪問型】 講師サポート研修</p>						
講座の概要	<p>◆「もっと授業力を向上させたい」、「生徒指導や学級運営を磨きたい」と強く願う講師の先生方に向け、指導主事が学校に行き、「こんな授業をつくりたい」という思いが実現できるようにアドバイスをしたり、学級運営・生徒指導のポイントを支援したりします。日々の悩みにもお答えします。先生方の希望に合わせて、年間を通じ継続的に学校訪問します。経験を積まれた方も大歓迎です。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○希望に合わせて、年間通じて学校を訪問して支援を行います。</li> <li>・授業参観を踏まえての、授業の基本についての助言</li> <li>・学級参観を踏まえての、学級運営・生徒指導についての助言</li> <li>・日々の悩みへの助言</li> </ul>					

講座番号	D 25	日時	学校の希望日	会場	各学校	
研修の種類	訪問型研修	対象者	小学校教員		ライフステージ	I~III
期待される学び	①子ども観の問い直し		育成指標	E ⑦教材研究⑧指導方法		
	②授業・指導観の問い直し					
講座名	<b>教師も子どももハハ！ 楽しい外国語の授業づくり</b>					<b>別途にて参加申込</b>
	【訪問型】外国語・外国語活動授業づくり研修					
講座の概要	<p>◆小学校3・4年の外国語活動、5・6年の外国語の授業で悩んでいる方はいませんか？ALTがせっかく来たのに、どのように連携すればいいか悩んでいる先生はいませんか？ALT派遣会社が、研修メニューを作成しそのメニューから受たいものを選択し、受たい人が受ける研修を、今年も実施します！ぜひ、この機会に小学校外国語の授業力を高めてみませんか。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <p>○研修メニューから1つ選択し受たい人が受ける、年1回の訪問型研修です。</p> <p>&lt;研修メニュー例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアワークやグループアクティビティのコツ</li> <li>・ICTを使った児童に人気のアクティビティ</li> <li>・ALTとのスモールトーク実践トレーニング</li> </ul>					

講座番号	D 26	日時	7月~10月	会場	各学校	
研修の種類	訪問型研修	対象者	小中学校教員		ライフステージ	I~IV
期待される学び	①子ども観の問い直し		育成指標	E⑧指導方法		
	③教師像の問い直し			E⑫ICT活用		
講座名	<b>先生にとって個別最適！「今さら聞けない」から「新しい活用方法」まで！</b>					<b>別途にて参加申込</b>
	【訪問型】ICT 端末活用研修					
講座の概要	<p>◆本研修前半では、学習指導要領のポイント（情報活用能力やICT活用）やGIGAスクール構想のねらいから、子どもが生きる近未来で求められる資質・能力について考えます。</p> <p>研修後半は、子どもたちの資質・能力の育成に向けた操作研修を行います。先生方は複数の問題解決型グループの中から選択受講できるため、充実度にバラつきが出ず、一人一人の操作レベルの向上が期待できます！ICT支援員の方々も一緒にフォローしますので、操作に不慣れな方にも安心してご参加いただけます。</p> <p><b>【R7年度に実施した小中学校の例】</b></p> <p>（前半）学習指導要領のポイント（情報活用能力やICT活用）や複線型の模擬授業（30分）</p> <p>（後半）複数の問題解決型グループの中から、先生方が希望するグループで操作を学ぶ（60分）</p> <p>A グループ：クラスルームの運用                      B グループ：学習ドリルの活用</p> <p>C グループ：特別支援学級での活用事例    D グループ：Canva for Education 操作</p> <p>E グループ：Google スプレッドシートを活用した共同編集    F グループ：生成AI</p>					

講座番号	D27	日時	7月～8月	会場	各学校の体育館	
研修の種類	訪問型研修	対象者	小学校教員		ライフステージ	I～IV
期待される学び	①子ども観の問い直し		育成指標	E⑧指導方法		
	③教師像の問い直し			E⑪集団における指導		
講座名	<b>明日からやいたくなる「集団遊び」や「仲間づくり」</b>					<b>別途にて参加申込</b>
	【訪問型】 集団あそび・学級づくり研修					
講座の概要	<p>◆この研修では、子ども同士の横の繋がりを意識しながら「あたたかい学級づくり」のヒントを、遊びながら楽しく学びます。体育館で、先生方が子どもの立場になって集団遊びを体験したり、「こんなときに、こんな関わりをしたらいいんだな」と気づいたり…。笑い声と動きの中に、学級づくりの本質が見えてきます。そんな心がほぐれる時間を過ごし、学級づくりのリスタートの場としてご活用ください。</p> <p>【活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 15：30 開会&amp;準備運動</li> <li>・ 15：35 運動遊びを体験する <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニュースポーツ ・ 集団宝取りゲーム ・ おにごっこ など</li> </ul> </li> <li>・ 16：45 終了</li> </ul> <p>備考：他校の先生も参加できるようにするため、訪問型が決まったところで各校に周知する場合があります。</p>					

講座番号	D28	日時	6月～12月	会場	各学校	
研修の種類	訪問型研修	対象者	小中学校教員		ライフステージ	I～III
期待される学び	①子ども観の問い直し		育成指標	E⑩個への指導		
	③教師像の問い直し			E⑪集団における指導		
講座名	<b>安心・安全な学校づくりを目指して</b>					<b>別途にて参加申込</b>
	【訪問型】 生徒指導研修					
講座の概要	<p>◆全ての子どもたちが安心・安全な学校生活を送るために、全教職員が生徒指導の理解を深め、実践力を高めることが必要不可欠です。本研修では、生徒指導提要（令和4年12月 文部科学省）に示された生徒指導の基礎基本について、全職員で共有することを目的としています。また、集団ゲームや運動遊びを通じた望ましい人間関係の構築、事例検討から学びはじめの初期対応など、各校のニーズに応じた内容で行います。夏休み中の学校や学年での校内研修としても、あるいは希望する教職員向けの研修としても最適です。本講座をぜひご活用ください！</p> <p>【主な内容（例）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【講義】 「生徒指導提要」から学ぶ生徒指導の基礎基本</li> <li>・ 【実習】 児童生徒同士の良好な人間関係をつくる集団ゲーム・運動遊び</li> <li>・ 【講義・演習】 具体事例から考える、いじめへの初期対応</li> </ul>					

講座番号	D29	日時	学校の希望日	会場	各学校	
研修の種類	訪問型研修	対象者	小中学校教員		ライフステージ	I~III
期待される 学び	①子ども観の問い直し		育成指標	E ⑩個への指導		
	③教師像の問い直し					
講座名	<b>すべての子どもに心を寄せる</b>					別途にて参加申込
	【訪問型】不登校児童生徒の理解と支援（スクリーニングシートの活用）					
講座の概要	<p>◆松本市では令和3年度より「スクリーニング会議」をスタートさせ、昨年度は小学校、中学校全校で実施しました。これまでに集まったデータからは、子どもたちの学校での悩みの傾向などが見えてきます。「スクリーニング会議」で利用した、自校の「スクリーニングシート」と、教育委員会がまとめた過去の分析データを重ね合わせて、子ども理解をさらに深めていく場を提供します。</p> <p><b>【主な内容】（研修時間は1時間）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年までのスクリーニング会議から見えてきた松本市の児童生徒の悩みの傾向の共有と、児童生徒の悩みと不登校との関連の分析</li> <li>・ 自分の学級のスクリーニングシートから見える、対応に必要な児童生徒の把握とその支援の方向</li> <li>・ 松本市の不登校支援の状況</li> </ul>					

**E 特別研修** 教師としての見方・考え方を深めたり、同僚性を高めたりする研修

講座番号	E01	日時	7/28 (火) 13:00～	会場	松本市音楽文化ホール および各学校	
研修の種類	指定研修	対象者	全教職員★	ライフステージ	I～IV	
期待される 学び	①②子ども観・授業観の問い直し		育成指標	D④チームマネジメント		
	③④教師像・学校像の問い直し			D⑥カリキュラムマネジメント		
講座名	<b>結 まつもと「学びの日」</b> 松本市全教職員研修（教育会と共催） <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">参加申込は不要です</div>					
講座の概要	<p>◆松本市の学校教育に関わる全ての先生が学びの場に集い「子どもが主人公」の教育理念を共有する「結 まつもと『学びの日』」。前回に引き続き松本市教育会と共同開催とし、各学校と主会場をオンラインでつなぐハイブリッド形式で実施します。今回は教育哲学者の苦野一徳先生を講師に迎え「子どもが主人公になる学校・授業」について問い直したり、各学校で進める「みんミラ」の実践の振り返りを互いに話し合ったりすることを通して、全ての子どもの学びを保障する学校づくりの実現に向けた機運を高めることをめざします。県費および市費の全ての教職員が参加対象です。</p> <p><b>【主な内容】 講師：熊本大学 苦野 一徳 准教授</b></p> <p>松本市教育会と共同開催とし、教育会の総集會も兼ねて開催します。参加者の皆さんには教育会の実践発表等も「研修」としてご参観いただきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育長 講話</li> <li>2 教育会の取組み紹介</li> <li>3 講演 苦野一徳先生</li> <li>4 参加者によるリフレクションおよび協議</li> </ol>					

講座番号	E02	日時	10/27 (火) 15:30～	会場	各学校 (オンライン)	
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員		ライフステージ	I～IV
期待される学び	①子ども観の問い直し		育成指標	D④チームマネジメント		
	③教師像の問い直し			E⑧指導方法		
講座名	<b>自分の観を深める「『子どもが主人公』の哲学」</b> 教育哲学研修 (オンライン)					
講座の概要	<p>◆「西郷先生のお話をお聞きして、私の中の凝り固まった価値観が崩れていく感覚がありました」「もっともっと西郷先生のお話を聞いていたい気持ちになりました」(昨年の参加者の感想より)</p> <p>「校則もない、制服もない」を公立の中学校で実現し、“日本一自由な公立中学校をつくった”と言われている元中学校長、西郷孝彦先生のお話の第2弾。松本市の教育大綱のテーマ「子どもが主人公」の意味を深め、「みんなミラ」実現に向け歩みを進めていきましょう。大胆な発想で学校改革をした西郷先生の哲学に触れ、子ども観・指導観・教師像を問い直す絶好の機会です。</p> <p><b>【主な内容】 講師：世田谷区立桜丘中学校 西郷孝彦 元校長</b> 講演「『子どもが主人公』の哲学 ～学校づくり実践編Ⅱ～」(仮題) ※本研修は、「第2回みんなミラ・ラボ」の中で行われる西郷先生の講演を「教育哲学研修」として、先生方に公開。</p>					

講座番号	E03	日時	8/3 (月) 13:45～	会場	勤労者福祉センター	
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員		ライフステージ	I～IV
期待される学び	②授業・指導観の問い直し		育成指標	D⑥カリキュラムマネジメント		
	③教師像の問い直し			E⑥指導方法		
講座名	<b>達人に学ぶ！子どもが柔らかくつながり合う学級づくり</b> 学級づくりワークショップ講座					
講座の概要	<p>◆軽井沢風越学園の初代校長、岩瀬直樹先生は、学級づくりの「達人」でたぐいまれなファシリテーター。あらゆる授業や活動の充実のベースとなる「子どもたちが安心して自己表出できる学級づくり」のためのマインドセットや方策について、全国でワークショップを実践されています。</p> <p>楽しく、あっという間の3時間の学びで「実践してみよう」と思う手応えがたくさん得られること、間違いなし！全ての先生たちにお奨めです。</p> <p><b>【主な内容】 講師：軽井沢風越学園 岩瀬直樹 初代校長</b> ・講師によるワークを交えた講義により学級づくりの基本を実感します。 ・講師の支援を受けながら実際に活動を体験し、リフレクションすることで、実践に向けた見通しを持ちます。</p>					

講座番号	E04	日時	9/9 (水) 9/10 (木)	会場	各学校	
研修の種類	訪問型研修	対象者	小中学校教員		ライフステージ	I~IV
期待される学び	①子ども観の問い直し		育成指標	D⑥カリキュラムマネジメント		
	③学校像の問い直し			E⑧指導方法		
講座名	<b>「全ての子どもの学びを保障する」マインドに触れる</b> <b>【訪問型】木村泰子先生と考える「みんなの学校づくり」I・II</b>					別途にて参加申込
講座の概要	<p>◆「すべての子どもの学習権を保障する『みんなの学校』」を創られた木村泰子先生が、朝から放課後まで、1日ゆっくりとあなたの学校を訪問され、子どもたち、先生たちと直接触れ合う「学びの時間」を持ちます。木村先生の語りかけを通して、先生の思いや人柄、メッセージに直接触れ、「自分で決めること」「人を大切にすること」「人の力を活用すること」の大切さを子どもたち、先生たちが深く実感的に学ぶことができる貴重な機会です。</p> <p>訪問校以外の先生の参観も大歓迎！すべての子どもの学びを保障し、子ども、教職員、保護者・地域が当事者として力を寄せ合う「みんなの学校」の実現にむけた「学び」を共有しましょう。</p> <p><b>【主な内容】 講師：大阪市立大空小学校 木村泰子 初代校長</b></p> <p>木村泰子先生による学校訪問。  授業参観および子どもへの授業実践をいただく。  放課後、全職員との対話の時間。</p>					

講座番号	E05	日時	7～12月の指定日	会場	指定校5校	
研修の種類	訪問型研修	対象者	対象校全職員		ライフステージ	I~IV
期待される学び	①子ども観の問い直し		育成指標	A 倫理観・使命感、子ども理解		
	②授業観・指導観の問い直し			B 確かな人権意識と共感力		
講座名	<b>不易 ～岩川先生と見つめる教育の根っこ～</b> <b>【訪問型】教師と子どもの絆を深める授業づくり研修</b>					
講座の概要	<p>◆教育の根っこである子どもへのあたたかなまなざしについて、ふと立ち止まって問い直してみませんか。「子どもを操作の対象として見るのではなく、子どもの相手になるとはどういうことか」「目の前の子どもの姿の背景をどうとらえればよいのか」について問い直す研修です。参観した授業の子ども姿について全職員で語り合ったり、岩川先生のご講演を聴いたりすることを通して、子ども観を問い直しましょう。</p> <p><b>【主な内容】 講師：信濃教育会教育研究所 岩川 直樹 所長</b>  <b>大東文化大学 中村 麻由子 准教授</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 校長・授業者との懇談</li> <li>2 授業参観（全職員で参観）</li> <li>3 子どもを語る会①（授業研究会 全体協議）</li> <li>4 子どもを語る会②（岩川先生・中村先生と語る会）</li> </ol>					

講座番号		期日	時間	会場	
第1回	E 06-1	6/4 (木)	15:00~	教育文化センター	
第2回	E 06-2	9/25 (金)		大手事務所	
第3回	E 06-3	11/9 (月)		大手事務所	
研修の種類	希望研修	対象者	全教職員	ライフステージ	Ⅱ・Ⅲ
期待される 学び	③学校像の問い直し		育成指標	D④チームマネジメント	
	④教師像の問い直し			D⑥カリキュラムマネジメント	
講座名	<b>〇〇主任のお仕事ゼミ</b> ワークショップ型ミドルリーダー研修 Ⅰ～Ⅲ				
講座の概要	<p>◆教務主任・研究主任・探究主任・学年主任・清掃主任・・・</p> <p>「主任としてどう動けばいいのか」と、一人で悩みを抱えていませんか？本研修は、学校にポジティブな気風を生み出す「ファシリテーター」としての役割を、全3回のシリーズで探ります。</p> <p>チームビルディングやインクルーシブな環境づくりなど、明日から使える実践的な理論をインプット。さらに、同じ課題意識を持つ他校の仲間と実践や悩みを語り合うことで、ミドルリーダーとしての「自分らしいあり方」を見通せます。</p> <p>講師の知見と仲間の経験を糧に、相談し、触発し合える学びのコミュニティを築きませんか。自分自身が楽しみながら学校を動かしていく、その最初の一步をここから踏み出しましょう。</p> <p>●各回のみ受講も可能です。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <p>各回とも講師の講義とワークショップにより、インプットを受けながらそれぞれの参加者の実践の成果や悩みを共有しながら学び合い、ミドルリーダーとしての実践力とつながり意識を高めます。</p> <p>第1回「ミドルリーダーに期待されること」 講師：教育研修センター 大久保和彦 センター長</p> <p>第2回「プロジェクト立ち上げに最適！ボトムアップ型プロジェクト入門」 講師：松本市教育委員会学校教育課 指導主事</p> <p>第3回「インクルーシブな教育環境づくりとミドルリーダー」 講師：松本大学教育学部 樋口一宗 教授</p>				

講座番号	E07	日時	11/17 (火) 13:45～	会場	実施校	
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I～IV	
期待される 学び	②授業・指導観の問い直し		育成指標	D⑥カリキュラムマネジメント		
	③教師像の問い直し			E⑥指導方法		
講座名	<b>子どもが「ファシリテーター」に育つ！ホワイトボードミーティング</b> ファシリテーション力向上研修					
講座の概要	<p>◆「子ども主体の授業・学校づくり」を実現するために、教師には「学びの伴走者」としての役割が期待されています。それを実現するのが、ファシリテーターとしてのマインドとスキル。ホワイトボードを活用し「オープン・クエスチョン」をベースに、参加者のうちにあるものを引き出し深めていくファシリテーション。子どもたちとともに意識的に取組むことで、子ども自身が「能動的な聞き手」に育ち、一層豊かな対話と思考力、表現力の高まりが期待できます。</p> <p>本研修では、講師のちよんせいこ先生が、学校を訪問しファシリテーションを活用した授業を公開、その後参加者の皆さんとワークショップを実施いただきます。「授業に生きるファシリテーション・スキル」を、日本の第一人者から具体的に学べるビッグ・チャンスです！</p> <p>【昨年度参加者の感想から】</p> <p>「聞き手の聞き方次第で、こんなに話を深掘りできるのかと驚きました。道徳やグループ活動で“表層で終わる”課題が、問い返しとオープンクエスチョンで変わるはず。短学活や隙間時間で練習していきたいです。」</p> <p>「『生徒をファシリテーターにする』発想にハッとしました。質問の技カードを活用し、練習が必要だという点も腑に落ちました。中学校の教科授業でも十分活用できると感じました。」</p> <p><b>【主な内容】 講師：(株)ひとまち ちよん せいこ 代表取締役</b>          「ホワイトボードミーティング®」開発者 ファシリテーション指導者          「よくわかる学級ファシリテーション授業編」(岩瀬直樹氏と共著)          「話し合い活動ステップアッププラン ホワイトボードで学級が変わる」          等著書多数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師による授業実践により授業でのファシリテーションの具体を理解します。</li> <li>・講師の支援を受けながら実際にファシリテーションを体験し、リフレクションすることで、実践に向けた見通しを持ちます。</li> </ul>					

講座番号	E08	日時	7/31(金) 13:30~	会場	松本市中央公民館 Mウイング6Fホール	
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I~IV	
期待される 学び	①子ども観の問い直し		育成指標	E⑩個への指導		
	③教師像の問い直し			E⑪集団における指導		
講座名	<b>子どもの笑顔を支えるための「教師のセルフケア術」</b> マインドフルネス入門					
講座の概要	<p>◆「子どもの笑顔を支えるために、まず教員自身が笑顔である」。大切なこととは理解しながらも、ついついご自身のケアは後回しになっていませんか？ 本研修では、ホッと肩の力を抜けるような対応を、認知行動療法という科学の視点から体験的に学びます。参加者が実践的なスキルを身に付け、日常生活に取り入れやすい内容です。首都圏で注目されている研修を、本市で受講できる貴重な機会です。全てのキャリアステージにある教職員が対象となりますので、是非ご参加ください！</p> <p><b>【主な内容】 講師：東京科学大学政策科学分野 土井理美 助教</b></p> <p>以下について、ワークを通じて学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教員自身の笑顔と、子どもの笑顔の関係を理解する</li> <li>2 セルフケアの方法を理解する</li> <li>3 セルフケアの方法を体験する</li> </ol>					

講座番号		期日	時間	会場	
第1回	E09-1	6/15 (月)	15:15~	教育文化センター	
第2回	E09-2	9/14 (月)		勤労者福祉センター	
第3回	E09-3	11/20 (金)		勤労者福祉センター	
研修の種類	希望研修	対象者	小中学校教員	ライフステージ	I~III
期待される学び	①子ども観の問い直し		育成指標	A 倫理観と使命感・子ども理解	
	②授業・指導観の問い直し			E⑧指導方法	
講座名	<b>「一人で悩まない」が成長のコツ。あなたの味方、まつもと講師塾</b> まつもと講師塾 I~III				
講座の概要	<p>◆日々の授業準備や子どもへの対応、誰にも相談できずに一人で抱え込んでいませんか？「まつもと講師塾」は、講師の先生方が明日からの教室で、少しでも自信を持って子どもの前に立てるよう全力で応援する場です。</p> <p>「発達特性のある子への声掛け」や「子どもが夢中になって学ぶ授業のコツ」など、すぐに使えるプロの知恵を、リラックスした雰囲気ですべます。悩みや本音を分かち合える「仲間の輪」を作るための時間です。</p> <p>全3回ですが、気になる回だけの参加も大歓迎！市教委の指導主事や専門家の先生が、あなたの「一番の相談相手」になります。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <p>3回シリーズの講座です。各回とも講師の講義・演習やアドバイスにより基本事項や授業づくりについて学ぶとともに、参加者によるセッションを行い、相談や実践の交流を図ります。</p> <p>第1回 授業づくりの基礎基本1（小中別、教科別開催）  <b>講師：松本市教委指導主事 松本市教科等研究推進教員の先生方</b></p> <p>第2回 発達障がいのある子どもの理解と対応を学ぶ  <b>講師：長野県発達障がい情報・支援センター 宮内かつら 副センター長</b></p> <p>第3回 授業づくりの基礎基本2（小中別、教科別開催）  <b>講師：松本市教委指導主事 松本市教科等研究推進教員の先生方</b></p>				

## F 支援員等研修 市費支援員等の職能の向上を図るための研修

講座番号	F01	期日	4/3(金)10:00～	会場	教育文化センター
研修の種類	指定研修	対象者	新規採用市費教員等★	ライフステージ	I
期待される学び	①子ども観の問い直し ③教師像の問い直し	育成指標	E⑧指導方法 E⑩個への指導		
講座名	<b>市費の先生はじめの一步！</b> 市費教員等新規採用者合同研修会				参加申込は不要です
講座の概要	<p>◆市費教員等としてスタートする皆さんに対して、仕事の見通しを持っていただくための研修です。服務・心得や子どもの教育に携わる職業人としての基本的な姿勢から、事務手続きの仕方に至るまで、幅広い内容をギュッと詰め込んだ中身の濃い研修となっています。アツという間の120分で翌日からの勤務の見通しが持てるはずです。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <p>1 服務・心得について（教育監訓示） 2 職務内容について 3 提出書類等について</p>				

講座番号	期日	時間	会場		
第1回	F02-1	4/20(月)	14:30～	勤労者福祉センター大会議室	
第2回	F02-2	9/14(月)	14:30～	勤労者福祉センター3-3	
第3回	F02-3	1/21(木)	14:30～	勤労者福祉センター3-3	
研修の種類	指定研修	対象者	自立支援教員★ ※第2回は教育支援センター指導員・ 不登校児童生徒支援員も対象	ライフステージ	I～IV
期待される学び	①子ども観の問い直し ③教師像の問い直し	育成指標	A倫理観と使命感・子ども理解 E⑩個への指導		
講座名	<b>つながろう自立支援教員！つなげよう社会的自立！</b> 自立支援教員研修会 I～III				参加申込は不要です
講座の概要	<p>◆「不登校等の子どもやその保護者とどう関わっていくか」「校内教育支援センターの運営や、通常教室での付き添い支援などをどのようにしたらよいか」など、日々悩みながら子どもとかわっているかと思います。講師や不登校支援アドバイザーの話をお聴いたり、同じ課題意識を持った教員と成果や課題を語り合ったりすることを通して、子どもが安心して過ごせる環境を整え、本人に必要な学習支援・居場所支援を行う見通しをもちましょう。</p> <p><b>【主な内容】</b></p> <p>1 講師（第2回）や不登校支援アドバイザー（第1、3回）等の話     <b>講師：お母さん心理学コーチ 進藤浩子 先生（元 公立小学校教員）</b></p> <p>2 グループ協議（子どもへの支援の成果や課題など） 3 情報共有（市内外の状況など）</p>				

講座番号	F03	日時	6/23 (火) 14:00～	会場	勤労者福祉センター
研修の種類	指定研修	対象者	特別支援教育支援員★ (看護支援員除く)	ライフステージ	なし
期待される 学び	①子ども観の問い直し		育成指標	D④チームマネジメント	
				D⑥カリキュラムマネジメント	
講座名	<b>特別支援教育支援員の役割ってなんだろう</b>			特別支援教育支援員研修	
	参加申込は不要です				
講座の概要	<p>◆特別支援教育の基本的な考え方や、大切にしたいことについて知り、「子どもに心を寄せる」支援について考えます。悩みを語り合えるグループワークもあります。</p> <p><b>【主な内容】 講師：長野県松本圏域発達障がいサポートマネージャー 新保文彦 氏</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援についての基本的な考え方や大切にしたいこと</li> <li>・障がいの理解や具体的な対応等</li> <li>・グループワーク（情報交換）</li> </ul>				

# IV 研修参加に係る諸手続き

## 01 | 松本市が独自で実施する研修

### (1) 研修参加申込（年度当初）

学校長が推薦した受講希望者を各校の教頭がまとめて、次の手順でメールにて、松本市教育研修センター（E-mail: e-kensyu@city.matsumoto.lg.jp）に送信してください。

- ① 3月に各校の代表メールに送信した「松本市教育研修センター講座 申込み用紙(様式1)」(エクセルシート)にて手続きをする。
  - ② 学校ごと受講申込みを集約し、エクセルの入力シートに必要事項を入力する。(入力例がシートの中にあるので、その例を参照しながら入力する)
  - ③ 学校長の決裁を受けてから、次の手順で教頭がメールにて送信する。
    - 1) 以下の4月中に実施の講座の申込みは、学校長の決裁後、**4月6日（月）**までに松本市教育研修センターへメールにて送信する(入力シート1)。
      - ・B06 松本市新任転任教職員研修 4/9
      - ・B05 松本市新任教務主任職研修 4/16
      - ・D10-1「対話する職員集団を創る」ワークショップ 4/21
      - ・D11「校内研修を創る」ワークショップ Season2 4/28
    - 2) **5月以降実施の講座の申込み**については、**4月22日（水）**までに松本市教育研修センターへメールにて送信する(入力シート2)
- ※ただし、下表1内の講座については、年度当初の申込み不要です。
- ④ 校長の決裁を受け提出した希望受講講座は、**原則全員受講可能**となります。どうしても受講が困難な場合のみ、学校長に連絡します。受講希望者個人への通知は行いませんので、各校にて受講希望者への周知をお願いします。

### ※下表1：年度当初の申込みが必要ない研修講座

A01 松本市実施初任者研修 I	A02 キャリアアップ研修 I 全体研修・自校課題研修
B01 松本市新任管理職研修	B02 校長マネジメント研修
B04 教頭研修	B09 新任特別支援教育コーディネーター研修
C12 生徒が自己肯定感を高める授業づくり研修	
D21～D29の「訪問型研修」	
E01 全教職員研修「結 まつもと『学びの日』」	E04 木村泰子先生と考える「みんなの学校づくり」
E05 教師と子どもの絆を深める授業づくり研修	F01 市費教員等新規採用者合同研修会
F02 自立支援教員研修会 I・II・III	F03 特別支援教育支援員研修

○キャリアアップ研修Ⅰとキャリアアップ研修Ⅱの選択研修について(教諭のみ。養護教諭と栄養教諭は県の要項に従う)

- ①キャリアアップ研修Ⅰの「選択研修」とキャリアアップ研修Ⅱの「わたしが選ぶ 総合教育センター研修(1日)」は、次の5講座の中から1講座を選択してください。また、松本市教育研修センターの各校の講座申込「備考欄」に「キャリアアップ研修Ⅰ 選択講座」・「キャリアアップ研修Ⅱ 選択講座」と記入してください。(各校では提出時に必ず確認をお願いします)。

**【キャリアアップ研修Ⅰ・Ⅱの選択する講座名】**

- ・C07 畔上先生と深める「探究の学び」観
- ・E06-1～E06-3 ワークショップ型ミドルリーダー研修Ⅰ～Ⅲ
- ・E07 ファシリテーション力向上研修

②キャリアアップ研修Ⅱの選択「わたしが選ぶ 授業公開等研修(総合教育センター以外)」の研修は、松本市教育センター研修の次の「実践校に学ぶ」シリーズからも選択することができます。

**【キャリアアップ研修Ⅱの選択 わたしが選ぶ授業公開研修】**

- ・C09 実践校に学ぶ「单元内自由進度学習」(寿小)
- ・C10 実践校に学ぶ「校内研修づくり」(並柳小)
- ・C11 実践校に学ぶ「探究の学び」(開智小)

(2) 追加募集 (随時)

- ① 申込み締切以降、追加申込みが可能な場合、引き続き申込みを受け付けます。**基本は、どの講座も追加申込み可能となります。**
- ② 研修講座追加申込み希望の教職員がいた場合は、次の手順でお願いします。
  - 1) **管理職**が松本市教育研修センターへ**電話連絡**(TEL:87-9909)をして、その旨を伝える。
  - 2) 電話後、4月に提出した「**入力シート 1 or 2**」の**最下段に希望講座等を入力し、備考欄に「追加申込」と記入の上、メール**(E-mail: e-kensyu@city.matsumoto.lg.jp)**にて申込みを行う。**
- ③ 申込み期間は、各講座の**実施日7日前**までに申し込んでください。

(3) 欠席、早退、遅刻

① 欠席について

止むを得ない事由により当該教職員が研修に参加できない場合は、次の手順でお願いします。

- 1) **管理職は**、松本市教育研修センターへ**電話連絡**(TEL:87-9909)をして、その旨を伝える。
- 2) 電話後、「**松本市教育研修センター講座 欠席・早退・遅刻 届**(様式2)」を作成し、**メール**(E-mail: e-kensyu@city.matsumoto.lg.jp)にて送信する。(様式はC4thからダウンロードできます。3月にメールでも送信します。ご活用ください)
- 3) 欠席をする教職員に代わり他の教職員が受講する場合、先述の様式に代理受講者名を記入して提出する。

※ 当日、研修受講者が**体調不良**の場合は、**管理職とよく相談し、出欠を判断**してください。

② 遅刻・早退について (様式はC4thからダウンロードできます:3月に、メールでも送信します。ご活用ください)

遅刻・早退となる場合は、次の手順でお願いします。

- 1) **管理職は**、松本市教育研修センターへ**電話連絡**をして、その旨を伝える。
- 2) 電話後、「**欠席・遅刻・早退 届**」を作成し、**メール**(e-kensyu@city.matsumoto.lg.jp)にて送信する。

## 02 | 長野県教育委員会と連携して実施する研修

松本市では、基礎研修及び一部の研修、一部の職務研修については、長野県教育委員会と連携をして行っていきます(下記参照)。また、松本市の県費負担教職員は、長野県総合教育センター等が実施する研修に参加することができます。これらの県が実施する研修については、県が指定する方法等により参加申込みを行ってください。

【長野県教育委員会と連携して行う研修】(県が実施する研修に参加)

- ・初任者研修
- ・キャリアアップ研修Ⅰ～Ⅲ(ただしキャリアアップ研修Ⅰの「教諭」に対する研修は、松本市教育委員会が実施)
- ・義務校長研修   ・義務新任校長研修   ・義務2年目校長研修
- ・教頭マネジメント研修   ・新任教頭研修ⅠⅡ

## 03 | 申込み上の留意点

- 研修講座一覧の中から選んでください。長野県教育委員会主催の指定研修と重複しないよう注意してください。
- 複数の研修講座を申し込む場合は、実施日が重複しないように注意してください。また、学校の行事・業務等と重複しないように注意してください。
- 総合教育センターの講座については、手順に従って申込みを行ってください。

## (様式1) 令和8年度松本市教育研修センター 講座申込み用紙

学校番号	学校名	学校長名	教頭名	延べ参加者数
				人

NO	学校名	氏名	フリガナ	職員番号	職名	講座番号	講座名	期日	備考
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									

(様式 2)

令和 年 月 日

松本市教育研修センター研修講座（欠席・早退・遅刻）届

※該当箇所を○で囲む

松本市教育研修センター長 様

学校名

校長名

電話番号

このことについては、下記のとおりです。

記

受講者氏名	職名	職員番号

講座番号	講座名	講座期間
		月 日( )~ 月 日( )
欠席・遅刻・早退 の事由		

※ 代理受講者がある場合は、下の欄に代理受講者名等を記入してください。

なお、欠席者の代理として、次の教員が受講します。

代理受講者氏名	職名	職員番号					

# 参考 長野県の教員育成指標

平成28年11月、教育公務員特例法の一部が改正され、教員としての資質の向上に関する指標の策定が義務付けられました。長野県教育委員会では、教員が各キャリアステージにおいて担う役割を明らかにするとともに、自らの職責や経験、適性に応じて効果的、継続的に学び続けることができるよう、長野県教員育成指標を策定しました。

長野県教職員育成指標：

[https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/kyoshokuin/documents/kyoinikuseishihyo\\_r4kaitei.pdf](https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/kyoshokuin/documents/kyoinikuseishihyo_r4kaitei.pdf)

松本市教育委員会においては、長野県教育委員会が公表した「長野県の教職員として求められる資質能力」および「長野県教員育成指標」を参酌しつつ、松本市の教職員研修の目的や目標を実現していく教職員研修を実施していきます。

## (1) 長野県の教職員として求められる資質能力

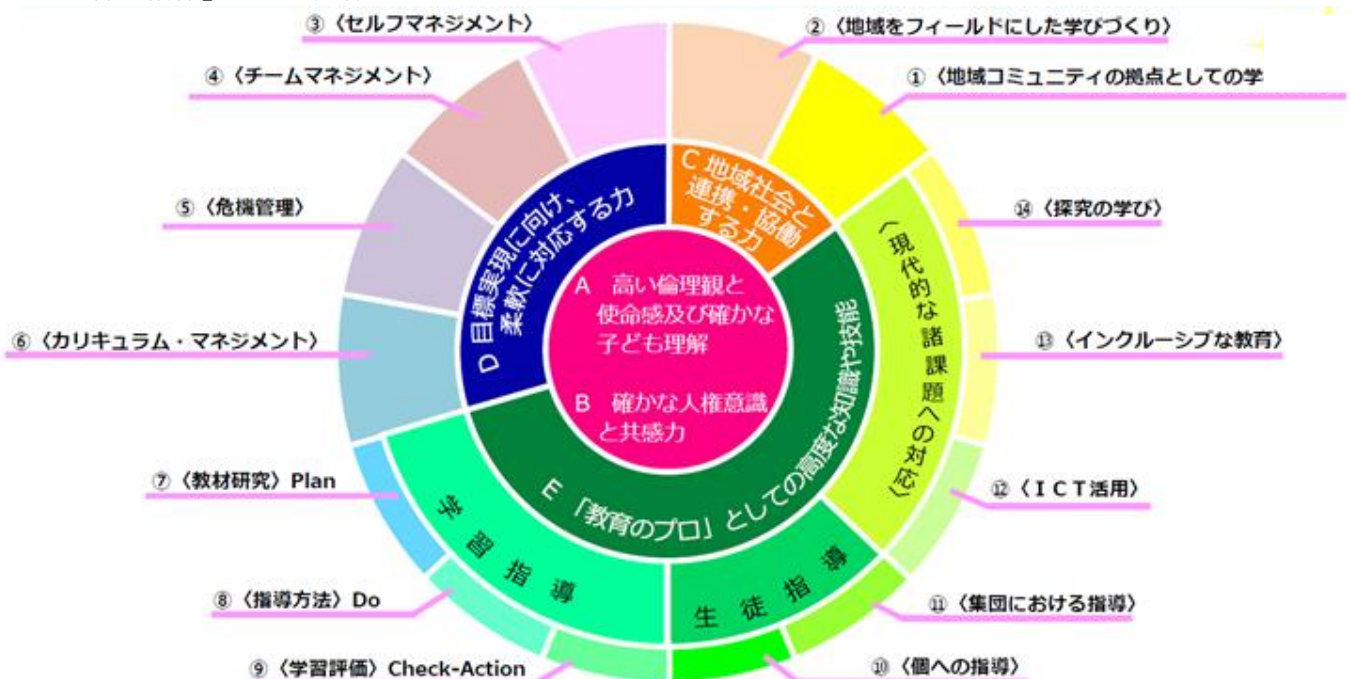
長野県では、「長野県教職員研修体系」の中で「長野県の教職員として求められる資質能力」として、次の5つを示しています。

求められる資質能力	指標の種類
A 高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解	理念指標
B 確かな人権意識と共感力	理念指標
C 地域社会と連携・協働する力	実務指標
D 目標実現に向け、柔軟に対応する力	実務指標
E 「教育のプロ」としての高度な知識や技能	実務指標

これらの「求められる資質能力」は「理念指標」と「実務指標」に分けられます。

「理念指標」は、繰り返し自覚し絶えず意識化を図る資質能力であり、教員の資質能力の中核に位置付けられるものです。

「実務指標」は、経験や研修を積むことで高めていく資質能力です。さらに、このC～Eの実務に係る資質能力を支えるスキルとして14のスキルが位置付けられています。これらの実務的なスキルの教員のキャリアステージに応じた高まるものとして、各段階で到達することが望ましい姿が「育成指標」として具体的に示されました。



## (2) 教員のキャリアステージ

長野県では、教員のキャリアステージを「基礎形成期」、「伸長期」、「充実期」、「次世代育成期・管理職期」に区分し、各キャリアステージの高まりを示しています。スキルの向上は、必ずしも年代や経験年数によるものではないため、「相当」という言葉を用いて幅をもたせています。

○第Ⅰ期 基礎形成期相当（経験1年～5年程度）
・教科指導や生徒指導について基礎的・基盤的な力を身に付け、実践力を磨く時期。 ・任された業務に積極的に取り組み、よい授業や学級経営に触れ、先輩や同僚から学びながら、常に新たな視点を身に付けていきます。
○第Ⅱ期 伸長期相当（経験5年～10年程度）
・教科指導や生徒指導の力をさらに身に付け、これまでの自分の実践を見返しながら、専門性を高めていく時期 ・教科や学年などのグループのリーダーとして、同僚性を高めたり、推進力を発揮したりしていきます。
○第Ⅲ期 充実期相当（経験10年～20年程度）
・学校の中核となる教員としての自覚をもち、組織マネジメントやリスクマネジメントなどの力を身に付け、それらを発揮していく時期 ・チームとしての学校への貢献度を高め、校内研修の充実を図りながら、学校の教育力を高めま
す。
○第Ⅳ期 次世代育成期相当／管理職期相当（経験20年以上程度）
・教員としての人間力をさらに向上させ、豊富な経験を生かし、多面的・多角的な視野をもって組織的な運営を推進していく時期 ・学校運営や、他の職員への助言や支援、学校の教育課題の解決を行い、学校や地域全体の教育力を向上させるリーダーとしての役割を担います。

## (3) 長野県教員育成指標

長野県の教員育成指標では、それぞれの資質能力を支えるスキルごとに、「チームとしての学校」の一員として、教員が各ステージで果たす役割に着目してスキルの高まりを表しています。

第Ⅰ期、第Ⅱ期は、主に知識・技能の熟達が高まり、第Ⅲ期、第Ⅳ期は、主にチームへの貢献が高まっていきます。

また、第Ⅰステージが土台となり、それに第Ⅱ、第Ⅲ、第Ⅳステージが積み重なってそれぞれのスキルが高まっていくことをイメージして表しています。

# 長野県教員育成指標

※長野県教育委員会作成「長野県教員育成指標」をもとに作成

ライフステージ		第Ⅰ期 基礎形成期相当	第Ⅱ期 伸長期相当	第Ⅲ期 充実期相当	第Ⅳ期 深化・貢献期相当／ 管理職期相当
A 高い倫理観と使命感および 確かな子ども理解		①社会の秩序と規律を遵守し、信頼される存在 ②教員としての責務の自覚 ③子どもに関する確かな科学的知見と深い人間愛			
B 確かな人権意識と共感力		①すべての人の人権を尊重する態度 ②児童生徒や保護者の思い（喜びや悲しみ）を感じ取る力			
C 地域 社会と 連携 する 力	① 地域コミュニティの 拠点としての学校づくり  地域連携による キャリア教育	・地域の活動や行事に積極的に参加したり、地域の方と交流したりして、地域理解に努める。  ・子どもたちの学びと社会とのつながりを見通すキャリア教育の視点を持ち、地域の人々との関わりや実社会における体験的な学びの意義を理解する。	・学習支援ボランティアの活用など、地域の人的・物的資源を効果的に組み合わせて教育課程を編成する。  ・子どもたちの発達段階や生活背景を踏まえ、教科指導と体験的な学びの連携を意識した支援を工夫する。また、同僚と協働し、地域の人々や保護者とともに、子どもたちが多様な生き方を考えるきっかけとなる学びの場づくりに取り組む。	・運営委員会と協働して活動を推進する中で、学校と地域が願いを共有して学校づくりに取り組めるようにする。  ・子どもたちが社会や職業に関する体験的な学習を行い、地域の人々とともに学ぶ機会を中心に据えた教育活動をリードする。保護者や地域の人々との連携を積極的に図り、学校全体で地域資源を活用した自らの生き方を考えるキャリア教育を推進する。	・地域と協働して児童生徒を育てる中で、地域コミュニティの拠点として、地域の活力・教育力の向上に貢献する。（管・深）  ・子どもたちが地域社会の一員として自らの可能性を広げられる学校づくりを推進し、地域や行政と連携して、子どもが自分らしい生き方を考える教育の仕組みを構築・発信する。
	② 地域をフィールドにした 学びづくり	・地域素材を教材化したり、地域での体験学習を取り入れたりと、児童生徒が地域を理解し、そのよさを実感できるようにする。	・地域の課題を発見したり解決策を提案したりする学習を通して、児童生徒が郷土への誇りや郷土の一員としての自覚を深められるようにする。	・地域をフィールドにした学習を推進するリーダーとして、自校・近隣校での実践の充実に寄与する。	・学校と地域、学校間をつなぐネットワークを構築し、地域貢献につながる教育活動を展開する環境を整える。（管・深）
D 目標 実現 に向け、 柔軟 に対応 する 力	③ セルフ ・マネジメント	・ワークライフバランスを重視し健康や時間を自ら管理しながら職務に向かうコンディションを維持する。 ・自己課題に沿った研修を実施し、周囲の助言や自己の振り返りをもとに、成長し続けようと努力する。	・自らの教職キャリアを俯瞰し、強みと課題を明らかにして今後の目標を設定し、日々の教育実践に具体化する。	・職務に関する最新の動向を把握したり、自分が得意とするスキルを磨いたりして、力量向上を図る。	・教員のロールモデルとしての役割を自覚し、自らの専門性や経験に基づいて、後進の指導にあたる。（管・深）
	④ チーム ・マネジメント	・チームの一員としての自己の役割を自覚し、任せられた職務に対して誠実に取り組む。 ・チームの目標を理解し、同僚と協力して目標実現に向けて努力する。	・学年経営や教科経営に積極的に参画し、メンバーと意思疎通を図りながら、既成概念にとらわれないアイデアを提案する。	・学校経営に積極的に参画し、自校の教育活動の状況を的確に把握しながら、校内の様々なチームや外部の専門職との連携・調整を図る。	・教職員一人一人が持っている力を引き出し、学校教育目標の達成を目指す組織文化を醸成する。（管・深） ・「チーム学校」の実現を通じて、複雑化・多様化した課題を解決に導いたり、教員が児童生徒と向き合う時間的・精神的な余裕を確保したりする。（管・深）
	⑤ 危機管理	・信頼される学校を実現する上で、危機管理やコンプライアンスが欠かせないことを理解し、危機の未然防止や発生時の対応に確実に取り組む。	・職場内での同僚性を高め、情報を共有したり、危機管理やコンプライアンスについて話題にしたりする風土を醸成する。	・発生事例やヒヤリハット事例を収集・分析するなどの研修を企画したり、危機を想定した訓練を行ったりして、学校の危機管理能力を高める。	・危機管理マニュアルを策定し学校の危機管理体制を整え、リスクの低減や危機発生時の的確な対応について、組織的に取り組む。（管・深）
	⑥ カリキュラム ・マネジメント	・日々の教育活動を「目標－内容－方法－評価」のセットで捉え、意図的・計画的に実践する。	・各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標の達成に向けて、教科等横断的な視点で、教育内容を組織的に配列する。	・児童生徒や地域の状況に関するデータ等に基づき、教育課程の編成・実施・評価・改善を行う一連のPDCAサイクルを確立する。	・児童生徒や地域の特性等に基づき学校教育目標を設定し、その達成を実現する教育課程編成の方針を策定する。（管・深） ・学校教育目標の達成に向けて、学校や地域が持っている人的・物的資源等を効果的に組み合わせる。（管・深）

E 「教育の プロ」 としての 高度な 知識や 技能	学習 指導	⑧ 指導方法 (Do)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業がもっとよくなる3観点」や「信州Basic」を踏まえた授業を確実に進行。</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の視点から、授業改善に取り組む、児童生徒の個性に応じた質の高い深い学びを引き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導と生徒指導の両面から児童生徒の学びを捉え、対話的な関わりを通して、児童生徒がメタ認知能力を発揮しながら「学びに向かう力」を高めていくようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内で互いに授業を見合う機会を設定し、創意工夫に基づく指導方法の不断の見直しに学校全体で取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの専門性や経験を生かして、学校全体の指導方法の質を高める。(深・管)</li> </ul>
		⑨ 学習評価 (Check-action)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「目標に準拠した評価」により一人一人の学習状況を把握し適切なフィードバックを行い内容の確実な定着を図る。</li> <li>・児童生徒が自己評価を行うことを学習活動に位置付け、学習内容の価値や自己の高まりに気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」など、多様な評価方法を用いて児童生徒の学びの深まりを把握し、学習・指導の改善に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な教育活動で行われている学習評価を関連付け、学校全体の学習の成果を的確に捉え、教育課程の改善に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの専門性や経験を生かして、学校全体の学習評価の質を高める。(深・管)</li> </ul>
	生徒 指導	⑩ 個への指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の内面を共感的に理解し信頼関係を構築する。</li> <li>・保護者や同僚と連携し、児童生徒を取り巻く環境や抱えている課題を的確に把握し、指導に生かす。</li> <li>・不登校傾向のある児童生徒の背景を理解し、信頼関係の構築を通して安心できる居場所づくりに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーチングスキルを身に付け、児童生徒自身の主体的な判断や自己決定を促すなど、一人一人のキャリア形成につながる指導に努める。</li> <li>・不登校の要因を多面的に捉え、関係機関や保護者と連携しながら、個別支援計画を立案・実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の状況を日常的に把握し、適時性のある指導方針を示したり、ケース会議の充実を図ったりして、学校全体の生徒指導をリードする。</li> <li>・校内体制の中核として、不登校対応の方針を示し、ケース会議等を通じて支援の質を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との連携を強化するとともに、教職員一人一人の役割を明確にした校内指導体制を構築し、その推進にあたる。(深・管)</li> <li>・不登校支援に関する校内体制を整備し、関係機関との連携を強化して、学校全体での対応を推進する。</li> </ul>
		* 不登校 対応 含む	⑪ 集団における指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活を送る上でのルールづくり、人間関係づくりを通して、児童生徒の社会的スキルを高める。</li> <li>・自発的・自治的な活動を重視し、児童生徒の集団への所属感や連帯感、問題解決力を高める。</li> <li>・集団活動に参加しづらい児童生徒への配慮を行い、安心して所属できる環境づくりを意識する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な教育活動との関連付けを図り、児童生徒の生活や学習の基盤としての集団の機能を高める。</li> <li>・多様な背景をもつ児童生徒が共に学べる集団づくりを推進し、居場所づくりに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの実践を通して、校内における望ましい集団づくりをリードする。</li> <li>・学校の風土の改善に向けた取り組みを校内で推進し、児童生徒の安全・安心な学びの場を確保する。</li> </ul>
	現代 的な 課題 への 対応	⑫ ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習目標の達成や校務の効率化に向け、学校にあるICT端末やクラウド等を効果的に活用する。</li> <li>・児童生徒の発達段階や実態に応じ、具体例に基づいた情報モラルの指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT端末やクラウド等を活用した実践事例を蓄積し、校内で共有する仕組みをつくったり、同僚の相談にのったりして、ICT端末やクラウド等の活用を校内に広げる取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員のICT活用指導力を把握し、校内研修を計画的に行ったり、一人一人の実態にあった研修の内容や方法をアドバイスしたりして、教職員の指導力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒に応じた学校の情報化を進めるためのロードマップを策定し、実現を目指す。</li> <li>・保護者や地域、関係機関と連携し、情報モラルの指導を体系的に推進する。(深・管)</li> </ul>
		⑬ インクルーシ ブな教育 *日本語指導教育 含む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知などの特性や発達障がい、合理的配慮に関する基本的な知識や考え方を身に付け、児童生徒の実態や教育的ニーズを踏まえ一人一人に応じた支援を行う。</li> <li>・授業のユニバーサルデザイン化に取り組む。</li> <li>・多様な言語背景をもつ児童生徒の実態を理解し、適切な配慮や支援を行うための基本的な知識と姿勢を身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒への理解力を高めるとともに、多様性を認め共に成長する集団づくりに同僚と協働して取り組む。</li> <li>・アセスメントについての知見を身につけ、必要に応じて活用する。</li> <li>・日本語指導が必要な児童生徒の学びを支えるために、教科指導と連携した支援の工夫や、校内外の支援体制との連携を意識した実践を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自発的・自治的に活動できる集団づくりをする。</li> <li>・アセスメントの知見を活かし、同僚への指導助言や実践の発信等を通して校内の特別支援教育の充実を図るとともにインクルーシブな教育をリードする。</li> <li>・学校全体で多様な言語文化背景をもつ児童生徒を支える体制づくりを推進し、教職員間の共通理解を深めるとともに、地域や保護者との協働を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の支援者との連携等を強化し、課題解決に向けた体制を構築するとともに、インクルーシブな教育の取組等の情報を地域へ発信する。(深・管)</li> <li>・地域や関係機関と連携しながら、日本語教育を含むインクルーシブな教育環境の整備を主導し、学校教育の質の向上と教育的課題の解決に貢献する。</li> </ul>
		⑭ 探究の学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究の過程を生み出す手法を身に付け、ファシリテーターとして、探究の学びの実現に取り組む。</li> <li>・児童生徒や地域の実態に基づき、総合的な学習の時間(小中)総合的な探究の時間(高)のねらいを実現する学習プランを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習プランを開発したり、ポートフォリオ評価に用いるルーブリックを作成したりして、校内での探究の学びの推進を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究の学びを推進するリーダーとして、自校・近隣校での実践の充実や教員の専門性の向上に寄与する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究の学びを中核に位置付けた教育課程を編成したり、人的・物的資源を組み合わせる支援体制を構築したりする。(深・管)</li> </ul>

ライフステージ		第Ⅰ期 基礎形成期相当	第Ⅱ期 伸長期相当	第Ⅲ期 充実期相当	第Ⅳ期 深化・貢献期相当／ 管理職期相当
E 「養護教諭」 としての 高度な 知識や 技能	<保健管理>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがや疾病の症状を的確に見極め、受診の必要性などについて適切判断し、迅速に対応する。</li> <li>・救急体制を整備し、関係機関と連携しながら組織的に対応する。</li> <li>・児童生徒の健康上の課題を早期に発見し、適正な保健管理を行う。</li> <li>・特別な配慮を要する児童生徒について関係機関と連携し保健管理を行う。</li> <li>・保健管理の効率化に向け、ICT 端末やクラウド等を効果的に活用する。</li> <li>・健康情報や公文書を適正に管理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒のけがや疾病及び感染症流行などの未然防止、再発防止について教職員の共通理解を図り組織的に推進する。</li> <li>・特別な配慮を要する児童生徒の学校活上のニーズを踏まえ、安心・安全な学校生活を送れるよう支援体制を構築する。</li> <li>・ICT端末やクラウド等を活用した保健管理の実践事例を蓄積し、校内で共有する取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健管理の充実に向けて保護者や関係機関と連携して組織的に取りみ、コーディネータ的な役割を果たす。</li> <li>・ICT端末やクラウド等を活用し、地域や保護者、関係機関と連携しながら、効果的な取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係諸機関との協力体制をコーディネートし、教育活動の円滑な実施と保健管理の充実を図る。</li> </ul>
	<保健教育>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・マネジメントの視点を生かし、保健教育の年間指導計画の作成に参画する。</li> <li>・児童生徒の実態や科学的根拠を踏まえ学級担任等と連携しながら保健教育を行う。</li> <li>・ICT 端末やクラウド等を活用した保健教育を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が自分の健康課題に気付き、主体的に取組む態度を養う保健教育を推進する。</li> <li>・家庭・地域と連携して健康課題を捉え、探究的学びを取り入れた指導方法で実践</li> <li>・評価・改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科横断的な指導を取り入れる。</li> <li>・児童生徒の実践力に結びつく効果的な保健教育を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導的立場で保健教育を組織的に推進する。</li> </ul>
	<保健相談/ 保健指導>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康課題の背景の把握、支援方針・支援方法の検討、学校内外の連携というプロセスを理解する。</li> <li>・個別の健康課題を捉え、発達段階に応じた課題解決に向けて、健康相談・保健指導を行う。</li> <li>・特別な配慮を要する児童生徒のニーズを見極めた健康相談・保健指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康相談・保健指導に必要な援助資源の情報を収集・活用し、関係者間のネットワークを構築する。</li> <li>・教育相談係や特別支援教育コーディネーターと連携し、チームとして対応する。</li> <li>・ICT端末やクラウド等を活用した健康相談・保健指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の健康課題の解決に向け、児童生徒の意思決定力や自己解決能力の育成を図る。</li> <li>・学校内外の関係者との即応的継続的な相談支援体制の構築においてコーディネーターの役割を果たす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の心身の健康課題の解決に向けた計画的・組織的な健康相談・保健指導において、指導的役割を果たす。</li> </ul>
	<保健室経営>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT端末やクラウド等を活用して情報を収集・分析し、主な健康課題について焦点化を図る。</li> <li>・学校教育目標や学校保健目標を踏まえ児童生徒の健康課題に応じた保健室経営計画を作成し、実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室経営計画を全職員に周知し、理解と協力を得て組織的に保健室経営を行う。</li> <li>・学校教育目標の具現に向け組織運営に積極的に参画し、保健室経営を工夫・評価・改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健活動における保健室のセンター的役割を理解し学校内外の関係者と連携しながら組織的な保健室経営を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の課題解決に向けて、保健室経営を行うことで、学校運営に貢献する。</li> </ul>
	<保健組織活動>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健組織活動の企画・運営に積極的に参画し、教職員と連携して学校保健活動を推進する。</li> <li>・健康課題を把握し、学校三師・関係諸機関・関係者等との連携・協力体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健主事とともに組織活動を積極的に推進し、活動の評価・改善を通して、児童生徒・教職員等が主体的に参加できる体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の健康課題解決のために、保護者や関係機関と効果的に連携・調整し、専門的な立場から積極的に企画・運営に参画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の健康課題解決に向けたマネジメント力を発揮し、地域の関係者と連携して活動を推進する。</li> </ul>
	<安全管理・ 危機管理>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の実態や特性に配慮した学校環境や連携体制を整備する。</li> <li>・事故発生時には、関係者に報告・連絡を確実にし、指示を仰ぎながら対応する。</li> <li>・事故発生事例を分析し、課題を明らかにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故発生事例を分析し、学校環境や児童生徒の行動の改善に取り組む。</li> <li>・関係機関との連携を強化して学校の安全管理体制や危機管理体制を点検・整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会や想定訓練の企画・運営を積極的に行い、学校の危機管理能力の向上を図り、危険を予見するとともに対処する。</li> <li>・事件・事故が発生した場合に適切かつ迅速に対処する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常時の安全確保、事故等の未然防止・再発防止を組織的に行い、リーダー的役割を果たして安全管理の充実を図る。</li> <li>・養護教諭の専門性に基づき安全管理体制について助言する。</li> </ul>
	<研究・研修>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒や学校の健康課題に対し、課題意識や研究疑問を見出す。</li> <li>・日常の実践から課題意識を持ち、課題解決や実践力の向上に向けて積極的に研修に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題意識を持ち、仮説を立て検証する養護実践を行い、評価する。</li> <li>・学び続ける意欲を持ち、自己研鑽に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの養護実践を研究的にまとめ学校内外の関係者に発信する。</li> <li>・専門性を深化・拡充するための自己研鑽に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの実践や経験を検証し言語化することで、成果を次世代に継承する。</li> <li>・導き出された成果を同僚や仲間と共有し活用することで養護教諭の専門性を高める。</li> <li>・現代的健康課題や社会の変化に対応できるよう自己研鑽に努める。</li> </ul>

ライフステージ		第Ⅰ期 基礎形成期相当	第Ⅱ期 伸長期相当	第Ⅲ期 充実期相当	第Ⅳ期 深化・貢献期相当／ 管理職期相当	
E 「栄養教諭」 としての 高度な 知識や 技能	A 食に 関する 指導 V	給食の時間の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の食文化や産業等を理解し、食に関する指導の全体計画に沿って、学校給食を「生きた教材」として活用した食に関する指導を行う。</li> <li>・食育だよりやICTを活用した家庭への食育を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の発育状況や栄養摂取状況の実態について栄養アセスメントを行い、発達段階に応じた指導を関係職員等と連携して行う。</li> <li>・給食の時間における指導の状況を適切に把握し、評価・改善し、学校全体における指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係職員と連携しながら、食に関する全体計画の見直し・改善を図り、中核となって取り組む。</li> <li>・事例研究や調査研究を行い研修会や学会等で発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の充実を図り、地域全体に助言を行うなど、指導的役割を果たす。</li> </ul>
		教科等の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科や学級活動のねらいを理解し、教育活動全般を通して、教科・学級担任と連携し、食に関する指導を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育としての食に関する指導について教科横断的な視点を持ち、食に関する指導の全体計画にそった継続的な指導を推進する。</li> <li>・専門性をさらに高め、これまでの実践について評価・改善し、成果をまとめ、校内で共有し、指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係職員と連携しながら、食に関する全体計画の見直し・改善を図り、中核となって取り組む。</li> <li>・事例研究や調査研究を行い研修会や学会等で発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の充実を図り、地域全体に助言を行うなど、指導的役割を果たす。</li> </ul>
		個別的な相談指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の食に関する個別的な課題のアセスメントに基づき、関係職員と連携し児童生徒・保護者への個別的な相談指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性をさらに高め、これまでの実践について評価・改善し、成果をまとめ、校内で共有し、指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例研究や調査研究を行い研修会や学会等で発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職として相談・指導を実施するとともに、地域における指導的役割を果たす。</li> </ul>
	A 学校 給食の 管理 V	栄養管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食摂取基準に基づき、多様な食材を活用した献立の計画を立案する。</li> <li>・児童生徒の実態から適切な栄養管理を関係職員と連携して行うとともに、食物アレルギーに配慮した対応を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献立のねらいを明確にし、関連する教科等の学習内容を踏まえ、食に関する指導の全体計画に沿った取組みを組織的に推進し、評価・改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関と連携し、児童生徒や地域の健康課題を把握して、適切な栄養管理を行い、評価・改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や地域の課題を踏まえ調査研究するとともに、関係職員と連携し、組織的に地域の食に関する課題に対する改善策をフィードバックするなど地域において指導的役割を果たす。</li> </ul>
		衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備等の課題を的確に捉え、課題について、関係機関と連携してチームとして適切な対応を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食中毒予防等に係る適切な衛生管理について、マニュアル等の見直し、改善を図り、関係職員と連携しながら、中核となって取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生管理についてリスクマネジメント等の力を身に付け給食関係職員等に指導助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食における衛生管理について地域全体に助言を行うなど、指導的役割を果たす。</li> </ul>
		危機管理 [異物混入、 食中毒、食物 アレルギー 等]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異物混入、食中毒、食物アレルギー等の危機管理マニュアル等に基づき、安全に配慮した給食運営を行い、事故発生時には適切な報告・連絡・相談を行い問題の解決に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故発生時には、適切かつ迅速に対処するとともに、事故事例を分析し再発防止を図る。</li> <li>・災害時における学校給食施設の役割について理解し、行政機関等との連携体制について必要に応じて見直すなどの改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故事例の分析結果を活用し、事故発生時にはより適切かつ迅速な対応をするとともに、調整役としての役割を果たす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職として相談・指導を実施するとともに、地域における指導的役割を果たす。</li> <li>・地域全体に影響する災害等の重大事故の場合は、リーダー的役割を果たす。</li> </ul>

## 松本市教職員研修計画検討会議 委員名簿

荒井 英治郎	信州大学教職支援センター准教授
上條 雪絵	松本市立清水中学校教頭
桐原 さやか	松本市立梓川中学校教諭
高橋 康弘	松本市立鎌田小学校教頭
田中 智之	松本市立明善小学校長
水野 真二郎	松本市立開智小学校教諭
宮内 かつら	長野県松本養護学校教諭
山口 真一	松本市立清水中学校長

※ 役職等は令和4年度のものです。

## 松本市教職員研修計画

令和5年2月策定

令和8年2月改訂

### 松本市教育委員会

〒390-0874

松本市大手3丁目8番13号

松本市役所大手事務所4F

TEL 0263-87-9909

FAX 0263-33-3934

## 令和8年度の新規研修等について

松本市教育研修センター

(★：新規研修)

### 1 全教職員研修 まつもと「学びの日」 指定研修（全教職員） 7/28

(1) 目的 松本市の学校教育に関わる教職員が各会場に集まり、市の教育基本方針や教育観を深める有識者の講演を聴いたり、自らの実践や手応えを互いに話し合ったりすることを通して子どもを学びの主体として尊重し資質・能力を育む授業づくり・学校づくりの実践を進める市全体の機運を高めることを目指す。主会場の音楽文化ホールと各校をオンラインでつなぐハイブリッド形式で開催。

(2) 講師：熊本大学教育学部 准教授 苫野 一徳氏

### 2 カリキュラムマネジメント研修 指定研修（各校1名） 5/29 10/9

(1) 目的 各校でカリキュラムマネジメント（以下CM）を担当する教員（教務主任等）を対象に、年間2回の講座を開設、「振り返りを学校の取組の改善につなげる」等CMの知見を学び、参加者同士が協議・相談しながら各校でのCMに取り組む実践的な講座。校長の支援を受けた各校での具体的な実践を通して「組織を動かす」経験を積み上げることが図る。

(2) 講師：大阪教育大学特任教授 陸奥田維彦 先生

### 3 校長・教頭マネジメント研修

#### (1) 校長マネジメント研修 5/11

「学習指導要領の理念を踏まえたカリキュラムマネジメント」

大阪教育大学特任教授 陸奥田維彦 先生

「いじめ等、児童生徒かトラブルへの対応のあり方」 大阪大学名誉教授 小野田正利 先生

※小野田先生の研修をオンライン配信、教頭が学校で聴講する。

#### 5/12 義務校長研修 小野田先生の講義「保護者対応のあり方」

※松本市の校長先生は総合教育センターにて対面受講いただく

#### (2) 教頭マネジメント研修 10/20

※本年度は長野県実施のカリキュラムマネジメント（オンライン）に参加  
総合教育センターへ Plant で申込み

### 4 生徒指導主任等研修★ 5/12

「いじめ等、児童生徒かトラブルへの対応のあり方」 大阪大学名誉教授 小野田正利 先生

※校長マネジメント研修と同内容の研修を生徒指導主任等が受講し、校長・教頭・実践リーダーが視点を共有し、リスク・クライシスマネジメントにあたる組織体制づくりを目指す。

### 5 ワークショップ「対話する職員集団を創る」1～3★ 4/21 5/29 7/9

「みんミラ」支援講座。研究主任・研修主任等を対象。学校づくりの基盤となる「教職員のコミュニケーションの活性化」→「ビジョンの共有」→「実践とその交流」を実現していく4～7月の「校内研修づくり」を具体的に学び、勤務校で実践を重ねることを通して、学校づくりのスタートを後押しするとともに、研究主任の自信と実践力を高めることを目指す。3回の研修を通して参加者同士の学びのコミュニティ形成も図る。

## 6 木村泰子先生と学ぶ「松本市子どもの権利条例」 9/8★

木村泰子先生を迎え、松本市の宝である「子どもの権利に関する条例」を学び、学校現場でどのように活かすかを本気で考える研修。車座で思いを語り合いながら、子どもの権利に関する条例を窓口で学校の現状を振り返ったり、条例の理念を活かした「小さな一歩」を考えたりする。

## 7 ようこそ 先生！ 希望する学校に講師が訪問し、学校づくりを支援

講師が学校に訪問し、直接児童生徒、学校の先生方に働きかけ、学習者主体の学びの機運の向上を図るもの。以下の2つを企画。

### ① 【訪問型】 デジタル・シティズンシップ教育研修 10/2 1校

講師（今度珠美氏：日本デジタル・シティズンシップ教育協会副理事長）が学校を訪問。当該校の先生の授業の参観と講評、講師による授業実践、先生方へのワークショップを行う。他校からの参観も可能とする。

### ② 木村泰子先生による学校訪問支援 9/9 9/10 2校

木村泰子先生が学校を訪問され、授業支援、全校・学年・学級等への授業実践、子どもたち・先生たちとの懇談等を通して学校を支援。『ご指導』ではなく、支援者の一人として学校を訪問し、先生方と思いを語り合いたい」（木村先生談）

### ③ ファシリテーション研修【講師実践の授業参観+ワークショップ】 11/17 1校

ホワイトボードを活用し「オープン・クエスチョン」をベースに参加者のうちにあるものを引き出し深めていくファシリテーションの実践を通して、子どもたちが関係性を深めながら「能動的な聞き手」に育ち、豊かな対話が実現していく様子を講師のちょんせいこ先生による実践授業と、その後のワークショップをとおして、目の当たりに学ぶことができる研修。

### ④ 教師と子どもの絆を深める授業づくり 5校

岩川直樹先生、中村麻由子先生とともに、授業参観を通して、子どもの姿を語ったり、先生たちの思いを交流したりすることとおして、「子どもに向き合うこと」を改めて問い直す。今年度より年次計画に沿って全校で実施。

## 8 達人に学ぶ！学級づくりワークショップ 8/3

学級づくりの達人、軽井沢風越学園の岩瀬直樹校長先生による学級づくりワークショップ。あらゆる授業・活動の充実の基盤となる「子どもたちが安心して自己表出できる学級づくり」のマインドセットと方策を3時間たっぷりのワークショップで実感的に学ぶ。大好評の講座を今年は夏季休業中に実施。

## 9 生徒が自己肯定感を高める授業づくり講座 年間6回 オンライン・ミーティング

気鋭の心理学者、高橋史先生が開発された「生徒が自己肯定感を高める授業プログラム」を年間を通じて継続実施。生徒が様々な状況の中で自己・他者を理解し、自分のよさを認識し続ける力を高めることを目指す、授業実践と連動した講座。

研修参加者が高橋先生より提供される「授業プログラム」を約2か月に1回、年間6回、各校の道徳の授業の中で実践。各実践の前後でオンラインによるミーティング（研修）を実施し、高橋先生より授業実践上の留意点の説明、質問への対応等の支援を受けたり、参加者同士が情報交換したりできる機会を持つ。学年単位で参加。中学1年を基本とするが、他学年・小学校の参加も可。

（別紙参照）

報告第 1 号

令和7年度松本市教職員研修実施報告について

1 本報告の趣旨

令和7年度に中核市教育委員会として実施した教職員研修の実施の概要について報告するとともに、参加者のリフレクションシートの評価や自由記述をもとに、各研修の成果と課題を定量および定性的に評価することで成果と課題を明らかにし、次年度以降の一層充実した研修の企画・実施に資することを旨とする。

2 評価の方法

- (1) 参加者リフレクションシートの「評価」(A～D、4段階)を統計処理し、研修全体および個々の研修について定量的な評価を行い、考察します。
- (2) 松本市教職員研修計画の「教職員研修の目標」(後述)の各項目の観点から、令和7年度教職員研修の実施状況を参加者リフレクションシートの自由記述等に基づいて定性的に評価します。
- (3) 令和7年度教職員研修の重点に基づいて実施された「重点実施講座」(後述)について、各講座の実施状況を参加者リフレクションシートの自由記述等に基づいて定性的に評価します。

3 令和7年度松本市教職員研修 実施講座数および参加者数

(1) 松本市が独自実施した研修

A	基礎研修	経験年数に応じた体系的・総合的な研修	講座数 4 (2)	のべ参加者 110 名 (54)
B	職務研修	職務遂行のために必要な資質・能力の向上を図るための研修	講座数 11 (11)	のべ参加者 594 名 (666)
C	専門研修	教科等における指導力向上を図るための研修	講座数 31 (31)	のべ参加者 388 名 (360)
D	課題別研修※	多彩な教育課題解決に必要な資質・能力の向上を図る	講座数 12 (12)	のべ参加者 412 名 (517)
E	特別研修※	教師としての見方・考え方を深めるための研修	講座数 12 (11)	のべ参加者 1,866 名 (1,728)
F	支援員等研修	市費支援員等の職能の向上を図るための研修	講座数 5 (5)	のべ参加者 220 名 (219)
				※…訪問研修を除く
合計	75講座	(72)		のべ参加者 3,590 名 (3,544)

(2) 長野県教育委員会と連携(委託)して実施した研修

研修名	人数 (のべ)
初任者研修 (1年次・2年次)	172
キャリアアップ研修Ⅱ・Ⅲ	106
校長・教頭研修	65
一般希望研修	178
計	521

#### 4 評価の実際

##### (1) 参加者評価の集計

###### 【満足度指標】の算出

今年度、研修終了後、参加者に提出を求める「リフレクションシート」に「本研修は、ご自身の今後の実践に活かそうと思う有意義な研修となりましたか」の項目を設け「A そう思う B だいたいそう思う C あまりそう思わない D そう思わない」の4段階による評価を求めた。

参加者の評価をA：3点、B：2点、C：1点、D：0点に換算し平均を算出（最大3）、その数値に33.33を乗じ、0～100の数値に変換し、「満足度指標」とした。

##### ① 研修全体の評価状況

###### 全研修の評価者集計

評価	A	B	C	D	合計	満足度指標
評価者数	1,399	361	20	0	1,780	92.5
割合	78.6%	20.3%	1.1%	0%	100.0%	

※「結まつもと学びの日」については各校を1評価者としてカウント

###### 講座別の評価状況

評価	満足度指標	講座数	割合
S	95 以上	33	47.2%
A	85 以上 95 未満	32	45.7%
B	75 以上 85 未満	5	7.1%
C	65 以上 75 未満	0	0%
D	65 未満	0	0%
合計※		70	100%
全講座の満足度指数の平均			94.1

※「初任者研修」（2講座）「キャリアアップ研修Ⅰ」（2講座）、市費教員新規採用者合同研修は評価未実施

##### ② 各研修講座の評価状況

研修領域	講座番号	期日	研修講座名	講師（所属）	人数	満足度
A 基礎研究	A01-1	5/20(火)	★松本市実施初任者研修Ⅰ	教育長、教育監	30	
	A01-2	1/15(木)	★松本市実施初任者研修Ⅱ	研修センター長、指導主事等	30	
	A02-1	5/26(月)	★キャリアアップ研修Ⅰ 全体研修1	山崎保寿（静岡大学名誉教授）	25	
	A02-2	1/27(火)	★キャリアアップ研修Ⅰ 自己課題研修	松本市教育委員会 指導主事等	25	
B 職 務 別 研 修	B01	4/7(月)	★松本市新任管理職研修	教育長、教育監	33	100
	B02	5/16(金)	★校長マネジメント研修	佐藤和紀（信州大准教授） 田村知子（大阪大教授）	45	98
	B03	6/30(月)	★校長・特支コーディネーター合同研修	庄司和史（信州大学特任教授）	92	90
	B04	5/15(木)	★教頭マネジメント研修	玉置 崇（岐阜聖徳大学教授） 佐藤和紀（信州大准教授）	50	95
	B05	4/17(木)	★新任教務主任研修	荒井英治郎（信州大学准教授）	21	88
	B06	4/10(木)	★松本市新任転任教職員研修	教育長、教育監	120	83
	B07-1	5/2(金)	★研究主任研修会Ⅰ	村上聡恵（東京都公立小学校教諭）	43	93
	B07-2	12/12(金)	★研究主任研修会Ⅱ	青山光一（私立大日向中学校校長）	47	92
	B08-1	7/3(木)	★特別支援教育コーディネーター研修Ⅰ	指導主事等	46	93
B08-2	11/17(月)	★特別支援教育コーディネーター研修Ⅱ	指導主事等	53	85	
B09	5/16(金)	★教務主任対象 校務から始める校内DX推進講座	佐藤和紀（信州大学准教授）	44	80	

研修領域	講座番号	期日	研修講座名	講師(所属)	人数	満足度	
C 専 門 研 修	C01-1	5/23(金)	国語授業づくりセミナーⅠ	上月康弘(松本大学専任講師)	4	100	
	C01-2	7/11(金)	国語授業づくりセミナーⅡ	上月康弘(松本大学専任講師)	7	100	
	C01-3	9/12(金)	国語授業づくりセミナーⅢ	上月康弘(松本大学専任講師)	5	100	
	C02-1	6/26(木)	小学校社会授業づくりセミナーⅠ	秋田 真(松本大学教授)	11	97	
	C02-2	7/17(木)	小学校社会授業づくりセミナーⅡ	秋田 真(松本大学教授)	8	92	
	C02-3	9/25(木)	小学校社会授業づくりセミナーⅢ	秋田 真(松本大学教授)	7	95	
	C03-1	5/23(金)	算数数学授業づくりセミナーⅠ	佐藤茂太郎(松本大学准教授)	12	92	
	C03-2	9/5(金)	算数数学授業づくりセミナーⅡ	佐藤茂太郎(松本大学准教授)	8	96	
	C03-3	12/5(金)	算数数学授業づくりセミナーⅢ	佐藤茂太郎(松本大学准教授)	9	100	
	C04-1	7/10(木)	理科授業づくりセミナーⅠ	指導主事等	3	100	
	C04-2	8/29(金)	理科授業づくりセミナーⅡ	指導主事等	5	93	
	C05	7/30(水)	体育授業づくり研修	濱田敦志(松本大学准教授)	10	92	
	C06	6/20(金)	★対話を生かした道徳の授業づくり	荒木寿友(立命館大学教授)	46	95	
	C07	5/8(木)	畔上先生と深める探究の学び観	畔上一康(信州大学特任教授)	33	94	
	C08	6/24(火)	実践校に学ぶ「単元内自由進度学習」	筑摩小学校	24	93	
	C09	9/26(金)	実践校に学ぶ「子どもが創る学校行事」	旭町小学校	8	100	
	C10-1	12/2(火)	実践校に学ぶ「探究の学び」Ⅰ 小学校	中山小学校	8	100	
	C10-2	5/29(木)	実践校に学ぶ「探究の学び」Ⅱ 中学校	丸ノ内中学校	12	87	
	C11-1	4/25(金)	生徒が自己肯定感を育む授業づくり講座1	高橋 史(信州大学准教授)	15	90	
	C11-2	6/19(木)	生徒が自己肯定感を育む授業づくり講座2	高橋 史(信州大学准教授)	15	90	
	C11-3	8/1(金)	生徒が自己肯定感を育む授業づくり講座3	高橋 史(信州大学准教授)	13	93	
	C11-4	10/9(木)	生徒が自己肯定感を育む授業づくり講座4	高橋 史(信州大学准教授)	13	93	
	C11-5	12/11(木)	生徒が自己肯定感を育む授業づくり講座5	高橋 史(信州大学准教授)	12	89	
	C11-6	2/12(金)	生徒が自己肯定感を育む授業づくり講座6	高橋 史(信州大学准教授)	14	90	
	実 習 等	C21	5/30(金)	まつもと学講座Ⅰ 上高地フィールドワーク	科学博物館館長 指導主事	7	94
		C22	5/16(金)	まつもと学講座Ⅱ 美ヶ原フィールドワーク	科学博物館館長 指導主事	9	96
		C23	6/13(金)	まつもと学講座Ⅲ 四賀フィールドワーク	科学博物館館長 指導主事	9	100
		C24-1	5/13(火)	まつもと学講座Ⅳ 松本の城と町①	市生涯学習課 学芸員	13	97
		C24-2	10/17(金)	まつもと学講座Ⅴ 松本の城と町②	市生涯学習課 学芸員	中止	
		C24-3	11/7(金)	まつもと学講座Ⅵ 松本の城と町③	市生涯学習課 学芸員	11	98
		C25-1	7/11(金)	I C T活用 一人一台端末操作研修(基礎編)	指導主事等	19	96
C25-2		11/14(金)	I C T活用 一人一台端末を活用した授業づくり	指導主事等	18	100	
D 課 題 別 研 修	D01	5/9(金)	★不登校児童生徒の理解と支援	高橋 史(信州大学准教授)	53	95	
	D02	8/1(金)	特別支援教育Ⅰ 障がいの理解と合理的配慮	樋端佑樹(かとうメンタルクリニック医師)	44	97	
	D03	9/4(木)	特別支援教育Ⅱ 障がいの理解と支援「教えて!本田先生」	本田秀夫(信州大学医学部教授)	47	97	
	D04	10/20(月)	★特別支援教育Ⅲ 自立活動研修	中信地区県立特別支援学校相談担当教諭	49	83	
	D05-1	6/6(金)	インクルーシブ研修Ⅰ「学びにくさを抱える子どもの支援」	指導主事等	31	93	
	D05-2	8/26(火)	インクルーシブ研修Ⅱ「学びにくさを抱える子どもの支援」	指導主事等	14	93	
	D06	10/2(木)	★デジタル・シティズンシップ教育研修	今度珠美(鳥取県DCエドゥケーター)	46	94	
	D07-1	5/29(木)	★カリキュラム・マネジメント研修Ⅰ	田村知子(大阪教育大学教授)	46	83	
	D07-2	10/21(火)	★カリキュラム・マネジメント研修Ⅱ	田村知子(大阪教育大学教授)	46	88	
	D08-1	6/17(火)	校内研修を創る ワークショップⅠ	指導主事	11	100	
	D08-2	9/2(火)	校内研修を創る ワークショップⅡ	指導主事	13	100	
	D08-3	11/20(木)	校内研修を創る ワークショップⅢ	指導主事	12	97	

研修領域	講座番号	期日	研修講座名	講師（所属）	人数	満足度
E 特 別 研 修	E01	7/25(金)	★全教職員研修「松本学びの日」(教育会と共催)	木村泰子(大空小学校初代校長)	1610	100
	E02	10/28(火)	教育哲学研修	西郷孝彦(元世田谷区立桜丘中学校長)	18	99
	E03	4/22(火)	達人に学ぶ!「子どもが主人公」の学級づくりワークショップ	岩瀬直樹(軽井沢風越学園校長)	64	97
	E06-1	6/5(木)	ワークショップ型 ミドルリーダー研修Ⅰ	教育研修センター長	7	90
	E06-2	9/25(木)	ワークショップ型 ミドルリーダー研修Ⅱ	澤田真由美(先生の幸せ研究所代表)	10	90
	E06-3	10/23(木)	ワークショップ型 ミドルリーダー研修Ⅲ	荒井英治郎(信州大学准教授)	9	96
	E06-4	11/17(月)	ワークショップ型 ミドルリーダー研修Ⅳ	樋口一宗(松本大学教授)	6	100
	E07	11/7(金)	ファシリテーション力向上研修	ちょんせいこ(株・ひとまち代表取締役)	84	94
	E08	7/31(木)	教師のためのセルフケア研修(マインドフルネス入門)	土井理美(東京科学大学助教)	40	91
	E09-1	6/16(月)	まつもと講師塾(講師対象研修)Ⅰ	市指導主事、市教科等推進教員	5	100
	E09-2	9/19(金)	まつもと講師塾(講師対象研修)Ⅱ	宮内かつら(県発達障がい情報支援センター)	10	100
	E09-3	11/21(金)	まつもと講師塾(講師対象研修)Ⅲ	市指導主事、市教科等推進教員	3	100
	F 支 援 員 等 研 修	F01	4/2(水)	★市費教員新規採用者合同研修会	指導主事	28
F02-1		4/21(月)	★自立支援教員研修会Ⅰ	指導主事	43	91
F02-2		9/8(月)	★自立支援教員研修会Ⅱ	指導主事	44	89
F02-3		1/29(木)	★自立支援教員研修会Ⅲ	指導主事	41	86
F03		6/24(火)	★特別支援教育支援員研修	指導主事	64	96

★…参加者を指定した研修

### 【考察】

- ・満足度指標が85以上の講座が92%、研修全体でも「実践に活かすものになった」という評価が「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせて約99%と、参加者からはおおむね高評価を受けていると判断できる。
- ・特に「結まつもと学びの日」「教育哲学研修」をはじめとする「全ての子どもの個性を輝かせた学び」を目指した「子ども観・学び観・教師像・学校像」の大切さを共有する講座、「子ども主体の授業づくり」を体験的に学び授業観を更新する講座、松本の地域の教育資源を臨地で体験的に学ぶ講座等について、参加者から高い評価を得ている。
- ・満足度指標がB評価の講座は参加者を指定する研修。課題意識や必要感が不十分な状況で「参加させられている」という意識をもった参加者が一定数いる。しかし、今年度、交流の機会を増やしたり、関係性の構築を図れるよう工夫したりすることにより、満足度は向上傾向にある。さらに指定研修の学びのあり方の充実を検討していきたい。

### (2)「松本市教職員研修計画」の目標に基づく評価

「松本市教職員研修計画」では下記のとおり目標設定をしている。目標の各項目を観点に令和7年度教職員研修を定性的に評価する。

○松本市独自の教職員研修の実施にあたっては、次の各目標に基づき、研修を実施する。

- ① キャリアステージに応じた研修と現代的な教育課題に対応した研修実施
- ② 研修ニーズの把握と研修の柔軟な企画・立案
- ③ 多様な方法による研修と学びのコミュニティの形成
- ④ 教職員の働き方を考慮した効果的な研修
- ⑤ 指導主事等による学校訪問研修の実施
- ⑥ 長野県教育委員会との連携

### 目標① キャリアステージに応じた研修と現代的な教育課題に対応した研修

「初任者研修」「授業づくり講座（各教科）」「まつもと講師塾」では、新任・若手教員が授業や学級経営の基本を習得し、意欲的に自校での実践につなげようとする姿勢が見られた。

また、管理職や特別支援コーディネーター等、キャリアステージに応じた体系的研修が実施された。特に保護者対応、校務 DX、インクルーシブ教育等、現代的な教育課題に直結するテーマ設定に配慮し、参加者満足度も高水準であった。

参加者からは、「管理職として何を大切にすべきか改めて考える機会となった」「組織で対応する体制づくりの必要性を実感した」との声があり、実践への展開の意欲が確認できる。

### 目標② 研修ニーズの把握と研修の柔軟な企画・立案

教員のニーズを考慮し、「ファシリテーション研修」「学級づくりワークショップ」「教師のセルフケア研修」など学校現場の課題意識に応じた研修を拡充・企画したところ、参加者数が大きく向上し高い評価を得た。

アンケートから、「今まさに必要としている内容だった」「実践に直結する研修だった」という声が多く聞かれ、企画・立案が効果的であったことが確認された。

特にファシリテーション研修、学級づくり研修には、全教職員が参加する学校も複数あり、学校全体での実践につながったという報告を得た。

### 目標③ 多様な方法による研修と学びのコミュニティの形成

研修スタイルの基本を「講義型」から「ワークショップ型」にシフトし参加者が対話を通して様々な価値に触れ、新たな気づきを得ることに重きを置いた研修を実施した。

これらの研修の際には、教員が主体的に関わり、積極的に意見を交換する姿が多く見られた。

「校内研修を創る」講座等、研修を通じて参加者同士がつながり、研修終了後も継続的な情報交流が生まれた研修もあったが、一部にとどまっており、学びのコミュニティ形成は今後の課題である。

### 目標④ 教職員の働き方を考慮した効果的な研修

働き方改革に対応した研修運営を目指し、参加しやすさと実効性を兼ね備えた企画に配慮し「オンライン実施」「放課後開催の短時間型研修」などの取組みにより、教員が負担感を感じずに参加できる形での実施を心掛けた。

教職員のアンケートでも、「無理なく参加できる形式だった」「時間や方法が柔軟だった」と高評価が多数報告された。

一方、研修の充実のために時間をより長く確保したいという反省を受け、研修開始時刻を15～30分早めた研修もあったが、大きな混乱なく受け入れられた。

### 目標⑤ 指導主事等による学校訪問

研修講師や指導主事の学校訪問が増加し、「デジタル・シティズンシップ教育」「校内授業研究会」や「個別相談」など、各学校の具体的な課題に対応した校内研修が充実した。

現場からは「学校訪問により具体的な助言を受けられ、授業改善につながった」との声が多数報告された。

### 目標⑥ 長野県教育委員会との連携

「初任者研修」や「キャリアアップ研修（Ⅱ～Ⅲ）」等の法定研修、「中学校各教科指導研修」「特別支援教育研修」等、市単独では開催が難しい研修が県との連携により効率的に実施された。

また、県で実施する法定研修の選択必修を松本市実施の研修から選ぶようにする等、柔軟な形で連携することができた。松本市の教職員の研修意欲が高く、多くの希望研修への申込があったものの、予算上限により制限せざるを得ない課題状況があったが、新

たな協定により解決される見通しとなった。

### (3) 重点実施研修講座への評価

令和7年度の教職員研修では下記の講座を重点として新規または拡充して実施した。これらの講座について、以下に成果を整理する。

#### ① 全教職員研修 まつもと「学びの日」

市内全教職員が教育理念を共有し、「子どもを学びの主体として尊重する」という視点を改めて確認した。講演とリフレクションを通して自校実践を問い直す機会となり、市全体で学びの改革を進める機運を高める場となった。

「木村先生の『すべての子どもが安心して学べる学校をつくるのは大人の責任』という言葉が強く心に残りました。自分の学校でも、子どもを中心に据えた学校づくりができていないかを改めて問い直したいと思いました。」

「市全体で同じ方向を向いていることを感じられ、孤立感が薄れました。」

#### ② カリキュラムマネジメント研修

教務主任等が実践と往還しながら、振り返りを学校改善に接続する具体的方策を学んだ。校長研修と連動する設計により、チームとして取り組む基盤が形成され、組織を動かす視点が明確化した。

「自分一人で抱えるのではなく、どう職員を巻き込むかという視点を学ぶことができました。校長と方向性を共有しながら取り組むことの大切さを実感しました。」

「具体的な事例が示され、自校での実践イメージが持てました。」

#### ③ 校長・教頭マネジメント研修

組織的カリキュラムマネジメントと学校DX推進について体系的に学び、管理職としての役割を再確認した。また、教務主任との同時学習により、学校全体で改革を進める共通基盤が形成された。

「学校DXは単なるICT活用ではなく、学校文化そのものを変えることだと理解しました。校長としてビジョンを示す責任を改めて感じました。」

「教頭として“つなぐ役割”をどう果たすか、具体的な視点を得ました。」

#### ④ ワークショップ「校内研修を創る」

校内研修を対話的・主体的に創る視点を獲得し、自校の研修構想を具体化した。他校実践者とのネットワーク形成も進み、校内研修を改革の核とする意識が高まった。

「校内研修が“やらされるもの”になっていたことに気づきました。先生たちが楽しく参加できる仕掛けを考えたいと思います。」

「他校の実践を聞き、孤立せずに挑戦できる仲間がいると感じました。」

#### ⑤ 教育哲学研修

「本当に子どものためか」という根源的問いを通して、校則や評価の在り方を見直す契機となった。子どもの『今』の幸せを基軸とした学校づくりの理念を深めた。

「これまで当たり前だと思っていた校則やテストの在り方を、子どもの視点から問い直す必要があると感じました。」

「“子どもが楽しい学校”というシンプルな問いが心に残りました。」

#### ⑥ 達人に学ぶ！学級づくりワークショップ

安心して自己表出できる学級づくりの具体的方策を体験的に学び、学級経営の重要性を再認識した。授業改善の土台づくりとしての学級づくりの視点が共有された。

「学級の雰囲気は授業の質を決めるという言葉が印象的でした。まずは子ども同士の安心感を育てたいと思います。」

「具体的な声かけや活動例が参考になりました。」

⑦ 生徒が自己肯定感を高める授業づくり講座

年間を通じた継続実践により、生徒の自己理解・他者理解を促す授業改善が進んだ。実践前後のオンライン協議を通して、参加者同士の学び合いも深化した。

「プログラムを実践する中で、生徒が自分の良さを語る姿が増えました。継続することの大切さを実感しています。」

「オンラインでの振り返りが励みになりました。」

⑧ 「実践校に学ぶ」研修シリーズ

自由進度学習や探究的な学びの実践を参観し、具体的なイメージを獲得した。協議を通して自校実践への見通しが高まり、学びの改革を現実的な挑戦として捉え直す機会となった。

「実際の授業を見ることで、“できるかもしれない”という気持ちになりました。」

「小さく始める方法を具体的に考えることができました。」

⑨ 教師のためのセルフケア「マインドフルネス入門」

教師自身の心のケアを科学的視点から学び、自己調整力を高める契機となった。多忙な現場において、教員のウェルビーイングの重要性を再認識する機会となった。

「忙しさの中で自分の心を整える時間の大切さに気づきました。」

「子どもに向き合うためにも、まず自分を大切にすることが必要だと感じました。」

## 5 総括的評価および改善の方向

### (1) 成果

① 市の教育理念の浸透と当事者意識の醸成

管理職研修や全教職員研修を通して、松本市の教育理念や施策の全体像が共有された。単なる制度理解にとどまらず、「自校の実践につなげたい」「組織で支える学校経営へ転換する」といった当事者意識の高まりが見られる。

特に管理職層が理念を“自校の文脈”に落とし込もうとする姿勢が顕著であり、市全体として改革の方向性が共通言語化された点は大きな成果である。

② 実践交流を通じた学びの深化と具体化

講義中心ではなく、実践事例の共有や対話型協議を取り入れた構成が高く評価されている。特に「実践校に学ぶ」「管理職同士の協議」といった場面で、自身の学校課題と照らし合わせながら思考を深める姿が見られた。

参加者の感想には「問い直したい」「持ち帰り共有したい」といった具体的行動意図が多く、研修の学びを実践に広げようとする意識が高まったことが確認できる。

③ 高い参加満足度と研修の質的評価

定量的評価において、多くの講座で「有意義だった」とする回答が大多数を占めた。研修設計・講師・内容・テーマ設定が現場ニーズに適合していることが示された。単なる満足ではなく、「実践に活かせる」「すぐに取り組みたい」といった声が多数見られ、研修の即効性と実効性の両面が一定程度担保されている。

④ 行動変容を促す省察機会の提供

参加者の記述からは、「問い直したい」「共有したい」「組織を変えたい」といった自己省察に基づく行動意図が多数確認できる。単なる知識獲得ではなく、実践改善への内発的動機づけが生まれていることがうかがわれる。特に管理職層が自校の現状を再評価しようとする姿勢は、市全体の学校改革推進力の底上げにつながる重要な要素といえる。

## (2) 課題

### ① 対話・協議のさらなる充実とコミュニティの形成

多くの講座で満足度は高い一方、「もっと語り合いたい」「実践交流を深めたい」という声も複数見られ、他校との情報交流や具体的事例の掘り下げを求めるニーズが高まっていることがとらえられる。

今後は、参加者同士が自校課題を持ち寄り協働で解決への気づきを得る、といった「対話・深化型」研修への比重をさらに高めていく。

### ② 研修後フォローと実践化支援

リフレクションからは、研修当日の満足度は高いが、その後の実践共有や成果確認の仕組みに関する言及が少ない。

今後は「みんなのミライの学校づくり」事業との関連を明確にし、研修を単発で終わらず、実践報告やリフレクション共有など、校内研修につなげる継続的な学びのサイクルを構築し、研修の学びを「知識」から「組織的实践」へ発展させることを重視していく。

### ③ 研修日程の調整と業務負担感の軽減

繁忙期に研修が集中するなど、負担感を示す記述が一部見られる。また悉皆研修の重複傾向が指摘されており、参加のモチベーションに影響を及ぼしている傾向がみられる。

年間研修カレンダーの調整と、オンライン活用等による負担軽減への配慮を一層深める。

## 6 令和8年度 松本市教職員研修の重点

令和7年度の成果と課題を踏まえ、令和8年度は以下を重点として展開する。

### (1) 基本理念と研修観の転換

『みんなのミライの学校』づくりを支える研修」を基本理念とし、四つの観——子ども観・学び観・教師観・学校観——の問い直しを最重要視する。

それを実現するため、研修を「誰かが教える場」から「参加者が価値を創出する場」へと転換し、自己変容を促す研修観を明確にした研修を実施する。

### (2) 校内研修を核とした実践展開

「校内研修で創る探究の学び」「校内研修で創る職員室の対話」等、研修での学びをそのまま校内の研修実践に展開できる研修設計を強化する。

### (3) 学びのコミュニティ形成の制度化

研修時にコミュニティ形成のきっかけを設け、研修後も実践共有を継続する仕組みを構築する。ICTを活用した交流、定期的な実践報告の機会を組み込む。

### (4) インクルーシブと人権教育の深化

子どもの尊厳を基盤とした「観」の問い直しを重点化し、子どもの権利条例に係る研修や松本市インクルーシブ・センターとの連携による研修を実施する。

教育政策課 教育研修センター  
センター長 大久保 和彦  
電話 87-9909

